

# 江戸ぶらり足袋



太田 はじめ

東京で生まれて22年間東京住まいでしたが、大して江戸の歴史や文化に興味を持っていませんでした。社会人となり転勤を重ねるたびに地方の名所・旧跡を訪れることが楽しみとなりました、定年13年前に東京勤務となり都内を歩く機会が増え素通りしてしまいそうな場所も気をつけてみると案内板や記念碑があり、説明に目を通していているうちに江戸の歴史や文化に興味を持つようになりました。

最近はたくさんの方が江戸の歴史や文化に興味を持っているようです、江戸検定では多数受験するようになっており小学校の生徒から90歳を超える老若男女が受験しております、かくゆう私も江戸検定3級に認定されております、またTVではぶらタモリ(NHK)は視聴率が高く大変好評で私も楽しみにしていた番組です。

江戸ぶらり足袋は江戸の歴史と文化について気軽に書いたものですが、私達が町中で何気なく歩いている場所が江戸時代はこんな場所だったのかと想像しながら歩いてみると楽しいものです、そんな風に歩くと手元に江戸時代が広がってきます、専門的な学術書といったものではありませんがエピソード等も交え・・・えそうだったのか、面白いなと楽しんでいただければ幸いです。

各テーマは自分自身の足で歩き、デジカメで撮った画像です、図書館通いもして色々な方の図書も参考にさせていただきました。どうぞ気軽にお読みください。

## 第1話 太田道灌-山吹の花は咲けども

第1話は室町時代までさかのぼりますが、やはり江戸城を築城し、今日でも道灌山、道灌通、道灌かがり(城の堀)等で親しみ深い太田道灌をとりあげてみました。

### 江戸城を築いた太田道灌の逸話

太田道灌像



鷹狩の途中急に雨に降られ蓑を借りようと近くのみすぼらしい農家に立ち寄ったところ家の中から年の端も行かない少女が出てきて黄色く咲いた山吹の一枝を無言のまま差し出したのですが道灌はその意味がわからず花が欲しいのではないと怒ってそのまま館に帰りその話を家臣に話したところ、それは「七重八重花は咲けども山吹の実の(蓑)一つだに、なきぞ悲しき」という後拾遺和歌集の古歌にたとえたのでしよう[家

が貧しく蓑さえ持ち合わせがない]とゆかしく断ったのだと教えられる。武勇に優れた道灌でありましたが百姓の娘は貧しくともきちんと教養を身につけているのに反し、自分はなんと無学であったことかと恥じ以来大いに発奮し歌人としても名をはせたと語り伝えられています。(後世の作り話ではありますが文・武両道に優れた道灌を後々忘れないように逆説的に作ったものと思われる)

\*後拾遺和歌集：応徳3年(1086年)完成の勅撰和歌集

太田道灌の銅像は彫刻家朝倉文夫氏の代表作で東京国際フォーラムのガラスホール棟に鷹狩のいでたちで江戸城に向かった立像があります。

朝倉文夫：明治から昭和の彫刻家で東洋のロダンと称されました。

### 山吹の里

この逸話に出てくる山吹の里は現在の早稲田周辺の山吹町から都電荒川線面影橋付近を指しているようです。

道灌は幼少のころから鎌倉五山で学問を研鑽し和歌や漢詩にも長じ五山の詩僧・文化人らと親しく交わっていたことから無学であったとはまったく反対のはなし。

寛正6年(1465年)に上洛した道灌は拝謁した室町幕府8代将軍足利義政から「武蔵野の風景はどのようなものか」と問われ、[わが庵(江戸城)は松原つづき海近く、富士の高嶺を軒端にぞ見る]の歌で応えたという。武勇に優れ声望もあった道灌でありましたが、あまりにも立派な江戸城を作ったことがかえって同族の嫉妬の原因となり謀反ありと疑われ主君である関東管領扇谷上杉定正に騙され酒宴の招きをうけ相模国粕屋(神奈川県伊勢原市)で風呂に入り終わったとき襲われ55歳の非業の死をとげました。

## \* これぞ道灌

室町幕府8代将軍足利義政は一匹の猿を飼っていました、この猿は見知らぬ人を見れば飛びつき引掻くという乱暴な猿でした、多くの武将がこの猿の被害に遭っていましたが将軍の手前我慢するしかありませんでした、あるとき道灌は主君上杉定正の名代として上洛し義政のもとに伺候することになりました、義政や近臣達は猿が名高い道灌を引掻きびっくりする姿を見ようと待ち構えていました、道灌がはいつてくるやいなや、猿が身構えたとき道灌ははつたと猿をにらみつけた、すると猿はとたんに縮こまり震えだし、道灌の様子を見つつ何度もお辞儀をする始末、これを見た義政はじめ近臣はびっくりしたと同時に「さすが道灌」皆は感嘆し更に一目置くようになったとのことです。

実は道灌はあらかじめ猿のことを聞いており、この事があることを予測し、密かに猿の子守に賄賂を贈り猿を借り受け殴りつけた後お辞儀をすると胡桃をやるといった方法で手なずけていました、つまり猿は道灌を見て怯え胡桃が欲しくてお辞儀をしていたという訳です。後にこのことを知った人々は道灌の知恵に感心したのであります。どこまでが本当かわかりませんがこれに近い事があったものと思われます。

## \* 歴史の奇遇

実は道灌と北条早雲は1432年同年の生まれです、早雲がまだ伊勢新九郎と名乗っていたときに道灌を訪ねて江戸城にやってきますが、城の堅固さと壮大さに度肝を抜かれこの人物とは戦っても勝ち目はないと悟ったようであります。

道灌が悲運にも殺された後早雲はメキメキ頭角を現し後北条100年を築いたのはご存知のとおりです。(早雲は88まで生きたと言われていましたが最近の研究ではそこまで生きていなかったようです)

\* 当時の江戸は現在の日比谷公園から東京駅あたりまで一面の砂浜で利根川や荒川もここで東京湾に流れ込んでいましたが「江戸」の地名もこうした大河(江)の入り口(戸)からでてきているという説が一般的のようであります。

## \* 江戸前

もともと今の築地から鉄砲洲にかけてとれたウナギを指したようであります。有名な蒲焼屋が銀座周辺に集まったのはウナギの漁場がすぐそばにあったからでしょう、今は銀座界限で鰻屋は少なくなりましたが銀座の竹葉亭は江戸末期の慶応2年に創業の老舗です。又江戸湾でとれた魚介類をねたにして鮓にしたものを江戸っ子は江戸前(江戸城の前の江戸湾)とよぶようになったと思われます。大分の城下カレイも同様に呼ばれています。

江戸城



徳川家康は征夷大將軍に任命されると大規模な江戸城築城に取りかかり、駿河台付近の丘陵がけずりとられ武家屋敷になったのでありますが、この削り取られた土地で埋め立てられ



たのが、日本橋、京橋、銀座、日比谷などであります。駿河台に大久保彦左衛門屋敷跡があります。

皇居東御苑(江戸城)は一般公開されており、大手門、平河門

きたはねぼしもん

、北桔橋門から入場できます。御苑内では天守閣跡、松の

廊下跡、大奥跡等江戸の歴史にふれることができます、たまには江戸城内をぶらりといかがですか (残念なことに江戸城は明暦の大火で本丸はじめかなりの部分が燃えてしまいました)

お堀



松の廊下



天守閣跡



百人番屋



\*東御苑の見学は予約申し込みはいりませんが伏見櫓、宮殿東庭等の見学コースは予約申し込みとなります。

一般参賀(新年・天皇誕生日)には宮殿東庭に特別はいれますが見学等はできませんので下記参観申し込みをされると良いと思います。

皇居内参観のご案内(無料)

桔梗門から入門し、休所でビデオご覧いただきその後宮殿東庭、二重橋等案内されます。

(所要時間約75分)

1名から300名までの申し込みできます。先ず電話にて予約し許可書を発行してもらいます。

インターネットでも申し込み及び手続きができます アドレス <http://sankan.kunaicho.go.jp/>

受付期間 参観希望日の1ヶ月前の月の1日からとなります

申込先 宮内庁管理課参観係 電話 03-3213-1111

〒100-8111 (住所不要)

## 第2話 明暦の大火（振袖火災）

---

「火事と喧嘩は江戸の華」と申しますが第2話は史上最大といわれ100万都市江戸市中の3分の2を焼けつくし10万人以上の命を奪った明暦の大火（振袖大火）をとりあげてみました。

### 明暦の大火(振袖火災)

#### 1. 振袖火災のいわれ

明暦3年(1657)正月18日・本郷丸山町にある本妙寺から出火したとされる大火は次のような話が伝わっています。

麻布の質屋の娘が寺小姓に一目ぼれし、その小姓が着ていた服と同じ模様の振袖を作らせて愛用していましたが、ふとしたことで死んでしまいました、両親は哀れんで娘の棺に振袖を着せてやりました、当時こうゆう棺にかけられた服とか仏が身に着けているカンザシなどは、たいていの場合、寺の湯灌場で働く者たちがもらっていいことになっていました。この振袖も湯灌場の手に渡り、高価なものと思えたので売り飛ばされ、まわりまわって別の娘のものになりました、ところがこの娘もこの振袖を愛用していて、暫くの後に亡くなったため、また棺にかけられて寺に持ち込まれることになりました、寺の湯灌場の男たちもびっくりしますが、またそれを売り飛ばし、また別の娘の手に渡りました、ところがその娘もほどなく死んでしまい、またまた棺にかけられて寺に運ばれてきました。今度はさすがに湯灌場の男たちも気味悪がり、寺の住職に相談し死んだ娘たちの親も集まりみんなで相談して、この振袖には何か因縁があるかもしれないということで、寺で供養することになりました。

明暦3年(1657)1月18日供養が行われました、その寺こそ本郷丸山本妙寺という寺です。…住職が読経しながら火中に振袖を投じます、ところがおりしも強風が吹き振袖は火がついたまま空中に舞い上がってから本堂の屋根に落ち火が燃え移ってしまいました、おりしも江戸の町は80日間雨が降っていなかったので火は次々と延焼し江戸市中を燃えつくし翌日には江戸城本丸天守閣まで焼失してしまいました。この話が江戸中に広まったため本妙寺が火災の火元になり一般に振袖大火と呼ばれているゆえんであります。実はこの話を町中に広めたのは幕府の忍者ではなかったかと言われています(本妙寺は明治43年現在の豊島区巣鴨5丁目に移っております)

#### 2. 火元の真相は

しかしこの話はまったくの作り話であり、本当は本妙寺が火元では無いのが事実のようであり、幕府の要請により火元の汚名をかぶったのが真相のようです。

理由は、当時江戸は火事が多く幕府は火元に対して厳罰を持って対処してきましたが、本妙寺に対しては一切のお咎めが無いばかりか、数年後には本堂が復興し格上げまでされておりあまりにも異例な厚遇を受けております。

さらに、寺に隣接して風上にあつた老中の阿部家から毎年明暦の大火の供養料が大正12年にいたるまでなんと260年余にわたり奉納されていた事実からみて火元が本妙寺とは思われません、真相は、本妙寺に隣接して風上にあつた阿部家が火元でしょう。

老中の屋敷が火元とあつては幕府の威信も失墜し、江戸復興の支障をきたすため、幕府の要請により本妙寺が汚名を引き受けたのでしょう、それによって阿部家の失火の責任を救い供養料はそれに対するお礼とみる

のが妥当ではないでしょうか。

### 3. 本妙寺周辺の文人



#### 赤門

振袖火災の火元とされた本妙寺は江戸きり絵図で見ると本郷通りをはさみ加賀前田家（現東大）赤門の反対に位置しこのあたりは菊畑で菊作りの職人が沢山すんでいたため菊坂町の名前がついたとも言われています。明治時代になると多くの文人が集まり、中でも樋口一葉、石川啄木にとっては思いで深い地になりました、一葉は旧菊坂町の貸家に移った頃から小説家の道を選びましたが、ここでの生活は貧乏そのもので借金と質屋通いの繰り返しでした。一葉が通った質屋は万延元(1860)年の創立で土蔵は一葉当時そのままになっています。この旧居跡の石の階段を上ったところに、坪内逍遙が[小説真髓]を書いたとされる逍遙旧居跡があります。現在は日立製作所社員クラブになっていてクラブ名も逍遙とついています、現役時代日立の方からクラブに案内され酒を酌み交わしながら文学談義に花が咲き楽しいひと時を過ごしました。

一葉が使った井戸



質屋



啄木歌碑



啄木は北海道から上京し、金田一京助を頼って赤心館に同宿その後近くの蓋平館、喜之床と転々となりました。啄木の代表作はほとんどがこの喜之床でつくられました。現在、喜之床の旧家屋は明治村に移築保存されています。

尚この菊坂近辺には宮沢賢治、徳田秋声旧居跡もあり、路地裏をぶらり散歩しながら明治の文人に触れてみてはいかがでしょうか





## 第3話 絵島生島事件

十一代目市川海老蔵襲名披露が六月大歌舞伎で上演され連日大好評です。今回は大奥をゆるがした大奥・絵島と歌舞伎役者・生島新五郎の事件を取り上げてみました。

### 絵島生島事件

#### 1. 事のいきさつ

正徳4年(1714年)1月12日のことであります。その日、江戸・木挽町にある芝居小屋・山村座に、大奥年寄り絵島の一行が入場。大奥の女中たち総勢百数十人を従えた絵島は、月光院の代参として芝・増上寺に参詣し、6代将軍・家宣の墓参を済ませた後芝居見物をしました

絵島をはじめとする女たちは評判の高い美男役者の生島新五郎を見れるとあつて棧敷席に陣取って酒や料理を楽しみながら、にぎにぎしく見物していました、大奥の実力者・絵島がきていることから座長・山村長太夫はじめ、生島新五郎たちが幕間に挨拶に訪れ、ともに酒を飲むことになったのであります。大奥勤めの女たちの宿下がり（外出日）は3年目に6日間、6年目に12日間、9年目に16日間とほとんど無く、それ以外の外出はこの日のような代参か寺社へお参りするときだけであつたから、つい羽根を伸ばし度をすごしてしまった為門限に遅れてしまいました。これまでは幕府の役人も芝居見物や門限の遅れなどは大目に見ていたのでありますがこの日は役人が上申したため芝居見物と酒宴のことが発覚してしまいました。絵島も生島も拷問され、不義密通があつたか否かが厳しく詮議される事となつてしまいました関係者は厳罰に処罰されてしまいます、絵島の兄は斬首、弟は江戸追放、絵島も死罪になるところを、将軍・家継の生母月光院のとりなしで信州高遠に流罪、役者生島は三宅島に流罪、山村座はお取りつぶしとなつてしまいました、連座、縁座はなんと1500名に及んだとのこと。 世に言う絵島・生島事件であります。

#### 2. 事件の背景 大奥の権力闘争

絵島は時の将軍・家継の生母月光院付きの年寄り、ところが月光院は町医者の娘で側室になつたのですが将軍の生母なので、発言力と勢力を日に日に増していたので面白くないのが正室の天英院でした、名門・近衛家の出で誇りも高く日頃月光院を恨んでいたものですから、このときばかりと月光院を追い落とそうと画策をし一大スキャンダルに仕立て上げてしまいました、この事件がきっかけで天英院は大奥に睨みを利かせるようになりますそして2年後7代将軍・家継が8歳で死去(不審死)、天英院は大奥の実権を握ることになった訳であります。そしていよいよ8代将軍吉宗が登場することになります

#### 3. 粋な町名 木挽町



木挽町の名前の由来は江戸城増築が行われたときに幕府がこの近辺に木挽職人を住ませた為についた名前のようにあります。木挽町は興行街として栄え山村座が出来たのを始め、河原崎座、森田座などの歌舞伎座がやぐらをあげました。江



戸時代から歌舞伎座に行くことを木挽町に行くといっていたようですが、今日でもそう言っている人もいます、残念ながら町名変更により現在は銀座7丁目になっています。

#### 4. 内藤新宿と絵島・生島

内藤新宿は高遠藩主内藤清成の屋敷だったところに新しい宿場を開いたので[内藤新宿]と名前がついたわけですが、絵島は高遠に流され生島は三宅島に流された事にちなみ現在新宿はそれぞれの姉妹都市となっています。

宿場町の新宿は現在の新宿御苑周辺にひろがっていました。

#### 5. 私の一押し



是非おすすめしたいのが歌舞伎座の幕見であります、豪華絢爛な歌舞伎が幕見ですと1000円前後で見れます。6月歌舞伎は昼の部で襲名披露口上、新海老蔵が「吉例によって一つにらんでお目にかけます」・・・  
・夜の部は江戸歌舞伎を代表する[助六由緒江戸桜]の主人公助六を新海老蔵が演じます。

最近になって幕見でも解説イヤホンが借りれるようになりましたのでこちらも是非試してみてください。歌舞伎座からは築地市場もすぐ近くにあり築地会館の和食処竹若、洋食では歌舞伎座裏の銀の塔がおすすめです。

**H25年4月に歌舞伎座が生まれ変わりました。**



日本橋界隈は江戸初期にタイムスリップするような老舗が今でも群れをなして営んでいます。中でも近江商人として最初に日本橋に出店した西川ふとん店(山形屋支店)と江戸庶民にお茶を広めた山本山は江戸日本橋を代表する老舗であります、今回はこの2店を取り上げてみました。

### 西川ふとん店

#### 1. 西川家の創業 近江商人の原点 天秤棒

西川家の創業は初代西川仁右衛門が永禄9年(1566年)近江八幡に店を構えたことに始まります。豊臣秀吉の甥秀次が近江国に任じられ「楽市楽座」の方針が発表されると仁右衛門は近江八幡の発展を予期し、この時を逃さず開業しました。近江商人は天秤棒を担ぎ「蚊帳」「畳表」「木綿」といった生活用品を北陸方面に売り歩き、売れた代金でその地の名産品を買い入れ京都、大阪、奈良で売るといふ所謂「のこぎり商法」をやっていました。

天秤棒が近江商人の原点とも言われ映画化された「天秤の詩」は西川仁右衛門をモデルにしています、仁右衛門はしだいに販路を広げ三河(愛知)、遠江(静岡)ついに江戸にまで足を伸ばしていきました。時代は豊臣から徳川の時代になり一漁村にすぎなかった江戸は武家屋敷が次々と出来上がり町は日に日に変わって行きますが仁右衛門はいち早くこの変化に着目し生活用品は必ず売れることを確信し元和元年(1615年)に日本橋の一等地に山形屋支店(近江屋)を近江商人として最初に開店しました。

まさにこの年は大阪夏の陣で豊臣氏が滅び名実ともに徳川政権になった年であります。三越の創業が1673年、松坂屋が上野に開業したのが1768年、伊勢丹が神田で創業したのが1886年であり西川の出店がいかに早かったかがわかります。

#### 2. 二代目甚五郎 萌黄色の近江蚊帳



初代仁右衛門の後を継いだ甚五郎は、なんとか江戸の人々に涼しさを与える事が出来ないものか色々考えこれまでの蚊帳が生地の色だったものを麻の生地に鮮やかな萌黄色の染色をほどこし縁に紅色を付け「近江蚊帳」を考案したところ、これが大評判となり江戸のみならず全国に広まり西川はゆるぎない地位を築いていきます。

江戸で盛んに売られた頃の営業ぶりを『平貞漫稿』は次のように伝えています。

「近江の商人で日本橋通一丁目などに店を構えてもっぱら近江産の畳表や蚊帳などの類を売る店があり、この店では手代を売人に仕立て雇夫にかやを担わせて市中を商いさせていた、雇夫には特に美声のものを選り数日間売り言葉を練習させてから商いにつかせた。 ” 萌黄カヤ” と声長く唱えるうちに半町も歩を運ぶほどの長い売り声であった。」

#### 3. 現在の西川

平成8年に創業450年を迎えました。現在では西川ふとん店としての知名度が高いのですがふとんの製造販売は明治20年に始まりました、その後「合織わた」を使用したふとんの商品化に成功「寝具革命」をお

こし、又ファッション性と機能性を重視した寝具の開発を進め世界的に有名なデザイナー・ウングロとデザイン提携をしたのは寝具業界初のことです。



しかしながら創業の精神は忘れることなく毎年夏が来ると「蚊帳」を店頭で展示しています、近年蚊帳はクーラーにかわりすっかり売れなくなったようですがそれでも東南アジアに転勤する商社マンが買いに来たりレトロブームかどうかわかりませんが、インターネットでの申し込みがあり年間15張ほど売れているようです

俳人 加賀の千代女の句 起きてみつ 寝てみつ

蚊帳の広さかな

## 山本山



元文3年(1738年)日本の茶業史を塗りかえたのが永谷宗円です。今日私どもが飲んでいる緑色の煎茶は宗円が製法を考案しました、宗円は宇治から江戸日本橋山本嘉兵衛店を訪ね新製法のお茶を売り込みに来ましたが、さっそく江戸で売り出されると緑の水色の美しさと、すばらしい香りその味は江戸町民にたいそう喜ばれ山本の店頭は急に客足が多くなりました。山本家旧記「之を発売するや、家声大いに揚がり、八百八街到る処として之を愛飲せざるものなきに到れり」とあり、永谷家は山本家より、明治8年までそのお礼として、毎年小判25両を贈

られていたといわれます。

山本山のもう一つの大ヒットは6代目による玉露の発明です。18歳の6代目徳翁が宇治の茶製造場に視察に行ったときの事、自分で蒸葉をかき混ぜていたところ、乾燥するにつれて葉が手につき、小団形のお茶が偶然出来あがった、これを何度か職人たちと再現し、ためしに飲んでみると、驚くほど品のある風味と鮮麗な色沢で甘露のようなお茶だった、これを「玉露」と命名したのであります、江戸に帰り、諸侯、旗本、茶人等に贈ると、たちまち絶賛を浴び最上級として広く愛飲され江戸の名物になりました。江戸時代に愛飲された緑の煎茶、玉露は現在もそのまま引継がれています。

山本山ではお茶、海苔の販売をしていますが、店の中には喫茶室があり抹茶会席、煎茶コースでお茶が飲めるようになっています、落ち着いた雰囲気味わえます、私も近くに行った時は山本山で一服していきます。是非日本橋に行ったときには寄ってみてください。

## 江戸時代の日本橋周辺の老舗

日本橋周辺は今でも江戸時代の老舗がまだまだ沢山ありますが、日本橋はもともと海で あったため

山本海苔店、井上海苔店、神茂(はんぺん、蒲鉾)、にんべん(鰹節)、八木長本店(鰹節)といった海産物店が軒を並べました



花の雲 鐘は上野か浅草か 芭蕉

江戸時代より今日に至るまで花見の名所として親しんできた上野の山ではありますが、今回は上野の山から下って根岸の里をぶらついてみました。よく知っているつもりの上野の山ですが以外と知らなかった歴史の一面に触れることができました。

### [1] 上野 東叡山寛永寺



江戸城は風水や陰陽道、真言密教などありとあらゆる呪術を駆使して作られた城であったようですが、江戸城の鬼門は東北の方位に位置しているのが上野であったことから、江戸城守護のため2代将軍秀忠は藤堂和泉守などの屋敷を立ち退かし真言密教の天海僧正に命じ上野に寛永寺を開かせました。天海は日光東照宮を造り、家康を祀りあげ、川越を小江戸にしたてあげた「黒衣の宰相」です。

\* 上野の寛永寺が江戸城の鬼門であったのに対し芝増上寺は裏鬼門に当たります。

寛永寺は京の比叡山延暦寺の写しとして造られました。正式名称は「東叡山寛永寺」です。東叡山とは東の比叡山の意味であり、不忍池を琵琶湖に見立て、琵琶湖の竹生島に相当する「中ノ島」をつくりそこに「弁天堂」を祀りました。本坊が寛永2年に竣工した事にちなみ寛永寺としました。寺の規模は広大で36万坪に及び70の寺やお堂などが建ち並びすべてが完成するのに80年もかかっています。「金閣の寺より光る寛永寺」と川柳にあるように、金閣寺や銀閣寺よりも立派だと江戸の人は自慢したとのこと。上野の山には天海僧正が最初に吉野の桜を移し3代将軍家光が自ら本坊に桜をうえたのにならって、各大名が競って桜を植えたのでまたたく間にその数が増え桜の名所となりました。

#### 時の鐘



「花の雲鐘は上野か浅草か」と芭蕉に詠まれた時の鐘は精養軒の入り口にあります。（この鐘は江戸城にあったものを移したものです）家康は江戸に入ってから、各地に時間を知らせる時の鐘を置きました。江戸の人たちは時の鐘の音で今何刻だと判断をしました。上野の山は度重なる江戸の火事と、彰義隊の戦いで主な建物はほとんど焼失してしまい現在残っている本堂も川越の喜多院の

薬師堂が移築されたものです。清水堂は寛永8年に京都の清水堂をまねて建てられその後元禄年間に建て替えられています。



家康を祀る東照宮は、寛永4年家光によりつくられました。江戸初期の権現造りの荘重な建物であり「金色殿」の門柱に彫られた昇り竜と降り竜は柱から抜け出して不忍池の水を飲みに行くという伝説があり、左甚五郎の作です。

また火消しの新門辰五郎奉納の水屋や6.8mの通称お化け灯籠もあります。



あまり知られていませんが寛永寺には大仏が建立されていきました。寛永8年に建立され最初は泥つくりでありましたが地震で倒壊したため銅の大仏に造り変えたものです。高さは6.7メートルとかなりのものです。関東大震災で首が落ちてしまい残っていた胴体は太平洋戦争で軍に供出されてしまいました。現在は大仏の顔が精養軒の前の大仏山にレリーフのように安置されています。

## 上野寛永寺から根岸の里へ

### [2] 根岸の里

もともと根岸の里も寛永寺の寺領でありました、根岸の地名は上野台の崖下という意味から付けられたと言われています。

「呉竹の根岸の里は、上野の山陰にして幽趣あるが故にや、都下の遊人多くは、ここに隠遁す、花になく鶯、水にすむ蛙も、ともにこの地に産するもの、其声一節ありて、世に賞愛せらりはべり」と江戸名所図会に説明されています。江戸時代の中頃より学者・文人・墨客の隠居所ができるようになりました。

根岸の里の侘び住居であります。この言葉を付ければどんなことばでも立派な句になってしまうと落語家は流石にうまい事をいったものです。ここで一句いかがですか ○○○○根岸の里の侘び住居 明治時代になると俳人正岡子規はここで37年間住み俳句雑誌[ホトトギス]を主宰しました。子規の住まい「子規庵」には多くの文人が通いましたが、夏目漱石の[我輩は猫である]は[ホトトギス]に載る前にここで朗読されて子規の批評を受けているようです。子規庵は戦災で焼失しましたが、元どおりに再建されて現在は一般公開されています。 雀より鶯多き根岸かな

子規

#### <根岸名物 豆腐と団子>

笹乃雪



元禄4年初代玉屋忠兵衛が上野の宮様のお供をして京都より江戸に来て初めて絹ごしの豆腐を作り、豆腐茶屋を根岸に開いたのが始まりです。宮様は当店の豆腐をことのほか好まれ「笹の上に積もりし雪の如き美しさよ」と称賛され「笹乃雪」と名付けそれを屋号といたしました。笹乃雪しおりより お昼にうぐいす御膳を味わってみました。店内には根岸ゆかりの文人、墨客の書・絵画等が展示されています。

水無月や根岸涼しき篠の雪

笹乃雪前の子規直筆の句

羽二重団子



創業は文政2年と190年余りの歴史があります。茶屋はかつての藤の木茶屋の名で親しまれ子規や漱石、司馬遼太郎ら文豪からも愛されてきました。団子のきめこまかさから羽二重のようだと言われそれがそのまま菓名となり、いつしか商号も「羽二重団子」となりました。正岡子規著「道灌山より」こゝに石橋ありて芋坂団子の店あり。繁盛いつ変わらず。店の内には十人ばかり腰掛けて喰ひ居り 羽二重団子しおりより



## 第6話 目黒不動と界限

今回は江戸五色不動の一つであります目黒不動周辺をたどってみました。目黒不動は江戸時代の歴史を今日まで残しているのんびり歩いてみると意外な発見がありました

### 1. 目黒の由来

目黒の語源は馬(め)畔(ぐろ)であり牧場の中の細道を意味していたようです。鎌倉時代よりこの周辺は牧場が多くあり今日でも目黒から世田谷にかけては牧場や馬にちなんだ地名が多く見られます、駒場・駒沢・上馬・下馬等であります。目黒競馬場は昭和8年まで府中に競馬場が移るまで開催されてきました。目黒の由来に諸説ありますがやはり「目黒不動尊」から来たという説が一番有力のようです。

### 2. 目黒といえば・・・

落語に出てくる「目黒の秋刀魚」はご存知の話ですが、ちなみに話のあらすじは『ある秋のこと目黒に鷹狩に来た殿様はお腹がすいてしまった、丁度このとき農家で魚を焼いていて良い匂いがしてきた、大変いい匂いなので家来に「これへ持て」と命じ生まれて初めて食べた焼きたての秋刀魚のおいしかったこと・・・この味が忘れられずある時お城で秋刀魚を膳にだすよう命じたのであります膳に出てきた秋刀魚は小骨を抜き、油をとるために蒸した秋刀魚であった。秋刀魚のような味はするものの、あの時の味と全く違ったので・・・「これはどこから取り寄せたのじゃ」「日本橋の魚河岸にござりまする」「だからまずいのじゃ、やはり秋刀魚は目黒に限るぞ」という話から目黒の秋刀魚になった訳です。この話は3代将軍家光や8代将軍吉宗が鷹狩の折休んだ茶屋を題材にして落語家が面白く作り上げたものですが、その茶屋は爺茶屋と呼ばれ茶屋跡が中目黒の坂道にあります。(先日秋の風物詩として目黒を訪れた大勢の人に焼きたての秋刀魚をふるまっていた様子が放映されていました。)

### 3. 江戸を護った五色不動 目黒不動尊



このお寺は正式には「泰叡山 瀧泉寺」という名です。縁起によると当山の開基は平安時代の大同3年(808)に円仁大師が建立したとされています。江戸時代になると3代将軍家光の力により一層発展を遂げます。家光のエピソード～「家光がこの地で鷹狩をした際その鷹が行方不明になってしまったので家光がひれ伏して懇願したところ、その鷹が本堂の屋根に戻ってきた。たいそう喜んだ家光は寛永11年(1634)大伽藍の工事を行いその結果「目黒御殿」と呼ばれるほど多くの信者を得た」と言われています。江戸の町を護るために、青、赤、黄、白、黒、の五色不動が江戸郊外に置かれたましたが目黒不動は瀧泉寺、目白不動は目白駅近くの金乗院、目青不動は三軒茶屋近くの教学院、目赤不動は駒込の南谷寺、目黄不動は三之輪の永久寺をあてています。五色不動は陰陽五行説によるもので青(木)、赤(火)、黄(土)、白(金)、黒(水)を意味しており目黒不動の瀧泉寺は水を意味していると言う事になります。



独鈷の滝



境内には開基以来一度も枯れたことがないと言われる独鈷の滝や思想家北一輝の碑、十五夜お月さんで知られている童謡作詞家本居長世の碑もあり裏の墓地には江戸時代にサツマイモの栽培を広め甘藷先生として親しまれた青木昆陽が眠っています。門前には歌舞伎で知られた白井権八と愛妾小柴の比翼塚があります。

青木昆陽の墓



不動尊商店街には徳川2代将軍秀忠の側室お静の方が子の成長を願い6地蔵を奉納したとされるたこ薬師(たこ(多幸)は福をすいとる)があります、お静の方の子は名藩主と言われた後の会津藩主保科正之です。

白井権八と小柴の比翼塚



タコ地蔵



## 目黒不動尊周辺ぶらり

**五百羅漢寺** : 元禄8年(1695)に本所に建立された名刹。5代将軍綱吉や8代将軍吉宗の援助を得て繁栄を誇り【本所のらかんさん】として江戸の人々に親しまれてきました。五百羅漢像は10年の歳月をかけて彫り上げたもので江戸時代を代表する木彫りです、明治42年目黒に移転。五百羅漢像は自分にそっくりの顔が必ず見つかるようです。

**切支丹止燈籠** : この燈籠は徳川幕府の弾圧を受けた隠れ切支丹が庭園の祠に礼拝物として密かに置かれていたといわれています、歴史的に文化価値が高く全国的にも数少ない燈籠です。大聖院境内

**大鳥神社** : この神社は日本武尊の東征にゆかりのある地に大同元年(806)建てられた目黒区内最古の神社。毎年11月開かれる酉の市は東京では古いものの一つと言われ大変な賑わいになります。

**大円寺** : 行人坂の中ほどに大円寺があります、明和9年(1772)大円寺から出火した火災は折からの強風に火が燃え広がり目黒から新吉原まで焼けつくし死者1万人を超す大火災となり行人坂火災として江戸3大火災の一つに挙げられています。だれとも知らず、石仏の釈迦仏を置いたのがきっかけで五百羅漢がすえられました。もう一つ火災の話ですがご存知八百屋お七は放火の罪で江戸市中引き回しの上火あぶりの刑となったのでありますがお七の恋人寺小姓吉三は後に大円寺隣の名王院の僧侶(西運)となり浄財で行人坂を下った目黒川にかかる木の橋(太鼓橋)を石橋に変え人々の安全に役立てました。名王

院（現在は目黒雅叙園）にお七の井戸がありますが西運はお七の菩薩を吊うため名王院から浅草観音まで40里（約40Km）の一万日行を27年5ヶ月かけ成就しましたが、その時に井戸水をかぶり浅草観音に向かった事でお七の井戸と言われてます。

**行人坂**：江戸初期に山形の湯殿山からきた行者が住み始めてから次々に行者が集まりいつとなく坂道を行人坂と呼ぶようになったようです。急坂です

**権之助坂**：ちょっと変わった名前ですが江戸市中から白金を通り行人坂を下る道が急で、荷を運ぶ人々が苦勞したため、新たに坂道を切り開いたのが菅沼権之助ですが幕府の許可を受けずにした事が罪にとわれ処刑されました。人々は権之助を偲び坂に名を付けて呼ぶようになったといわれています。

行人坂



羅漢寺



キリシタン灯籠



大鳥神社



お七の井戸



権之助坂



## 第7話 八重洲と有楽町の由来

江戸の地名には人物にちなんだ名が沢山あります今回はその中でもポピュラーな八重洲と有楽町の由来とその人物に迫ってみました。

期せずしてヤンヨーステンと織田有楽斎は江戸初期にごく近くに屋敷を構えていました。

### 八重洲の由来

ヤンヨーステンレリーフ



八重洲はオランダ人ヤン・ヨーステンの屋敷があった事から八代州→八重洲の地名となったものですがヨーステンの屋敷は江戸城和田蔵門の前にあったと言われていて、池波正太郎流表現をかりれば江戸古地図和田蔵門前に八代州川岸を見出す事ができます。

### ヤン・ヨーステン

1600年4月19日、オランダのリーフデ号が豊後(大分)に漂着。

ヤンヨーステン像



当時大阪城に居た家康は乗組員のヤン・ヨーステン、ウィリアム・アダムス(日本名:三浦按針)を大阪に呼び会見、家康は西欧の文化、砲術に関心を持ち二人を外交顧問とします。

1600年4月と言えば関が原の戦いの6ヶ月前であります、西欧では既に大砲は戦争で欠かせない強力な武器であったのであります。当時の日本では鉄砲がようやく浸透したに過ぎなかったのであります。家康は大砲に目をつけイギリス、オランダから大砲を調達、関が原の戦いは家康の東軍が勝利、やがて大阪冬の陣が始まりますが勝敗は豊臣側に分があり徳川方は苦戦しますが大砲の玉が本丸を脅かすと形勢逆転、冷静さを失った淀君は秀頼、真田幸村らの反対を押し切り徳川方と和解。この時の和解では大阪城の外堀だけを埋める約束でしたが徳川方は約束を無視し内堀まで埋めてしまったのです。

やがて夏の陣で豊臣家は滅亡。

歴史にもしもは禁物ですがもしもヤン・ヨーステンが家康と会見しなければ徳川方は大阪冬の陣で.....

家康はいっそうヤン・ヨーステン、ウィリアム・アダムスを重要視し海外の情勢をつかんだのであります。後に3代将軍家光は鎖国令を出しますがオランダだけが長崎の出島で貿易が許されたのはヤン・ヨーステンが家康の信任が厚かったためでしょう。

ウィリアム・アダムス(三浦按針)は日本歴史上ではヤン・ヨーステンより知られていますが、ヨーステン同様に江戸に屋敷を与えられ明治初年まで按針町の町名が残っていました。(現日本橋室町1-10-8に按針の屋敷跡があります)

京浜急行には安針塚駅があります。ウィリアム・アダムスは三浦郡逸見村(横須賀市逸見)に250石の領地を拝領したことにちなみ三浦按針と名のりました。アダムスの故郷メドウエイ市は横須賀市の姉妹都市になっています

有楽町の地名は織田信長の末弟織田有楽斎の屋敷があったことによるものです。又数寄屋橋は江戸城

中の茶礼、茶器を掌り、数奇屋坊主を総括する数奇屋役の役宅が橋の付近にあったので橋の名を数寄屋橋と名付けられたようですが、有楽齋の数奇屋がいくつかあったことによるともいわれています。

数寄屋橋由来碑



菊田一夫君の名は碑



数寄屋橋の名が全国的にひろまったのは何とんでも菊田一夫の「君の名は」が昭和27年にNHKでラジオ放送されたことによるものでしょう。よる8時半に放送が始まると当時風呂屋の女湯がガラガラになってしまったほどの人気ドラマだったようです。

^ 戦後の時代背景を舞台に数寄屋橋で出会った男女が半年後の再会を約束して別れるのですが・・・ ^

一方有楽町は歌手フランク永井の「有楽町で会いましょう」(昭和32年)

あなたを待てば雨が降る濡れて来ぬかと気にかかる・・・が大ヒットし全国に瞬くあいだにその名が広まりました。

## 織田有楽齋

織田信長の実弟で本能寺の変のときは京都にいましたがどうにか逃げる事が出来ました。変後は織田信雄に仕えたのですがその後所領を捨てて剃髪し秀吉に出仕、秀吉を恐れて号を無楽齋と称しましたが秀吉より有楽齋がよかろうと言われ号を改めたと言うエピソードがあります。

関が原の合戦では東軍に属しますがその後は大阪城に出仕して姪の淀君を助け、大阪冬の陣の際にも大阪城内にいましたが内実は家康より間者として送り込まれ大阪城内の情報を江戸に流していたようです、冬の陣では和解に奔走見事和解を成立させました、結局この和解により豊臣家は滅亡の一途を辿る事になります内通を疑われ夏の陣を前に城を離れ京都東山へ隠棲、建仁寺に茶室如庵を設けます。茶の湯は千利休に学び利休七哲の一人に数えられ利休が亡くなった後は秀吉の茶の湯を掌る事になりました、茶室如庵は愛知県犬山城の有楽苑に移されています。如庵は現存する国宝茶席3名席の一つであります、お茶にご興味がある方は犬山へどうぞお出かけください。

## 第8話 赤穂浪士本懐の引き上げコース

今回は赤穂浪士、本懐引き上げ道行きの方と関連する歴史の舞台を江戸切り絵図を手にしながら辿ってみました。

### 赤穂浪士本懐の引き上げコース

- ① 吉良上野介義央邸跡⇒②回向院⇒③大高源吾の句碑⇒④義士休息の地  
⇒⑤永代橋⇒⑥浅野内匠頭邸跡⇒⑦築地本願寺⇒汐留橋⇒金杉橋⇒  
三田八幡⇒⑧泉岳寺



元禄15年(1702)12月15日7ツ時(午前4時)赤穂浪士は仇敵吉良上野介邸に討ち入り2時間の激戦のすえ、上野介の首を討ちとりました。当時の広大な吉良邸は現在松坂町公園と小さな公園になっていて園内には首洗い井戸等があります。



本懐を遂げた浪士たちは隣の回向院に集合しようとしたが血塗りの異様な風体に驚いた僧に入山を拒否され泉岳寺に向かいます

回向院は明暦3年(1657)の明暦の大火の犠牲者を埋葬するために建立されました。

義賊と言われたねずみ小僧次郎吉の墓があり墓石の破片を持っていると賭け事に強くなると言われ墓石が削られてしまうので今では本物の墓の前に仮墓石が建っています。



大高源吾句碑は両国橋袂にあります、源吾は松尾芭蕉の高弟、宝井其角の門人となり吉良邸茶会の情報を入手しました、歌舞伎の場面にもしばしば登場します。

「日乃恩や忽ち砕く厚氷」の句碑が建っています。



義士休息の地 一行は当日が江戸城登場の日にあたるため両国橋をさけ隅田川に沿って御船蔵を通り永代橋に進みます、引き上げの途中大高源吾の俳句の友、ちくま味噌の初代作兵衛が一行に甘酒を振舞った場所で碑が「乳熊ビル」の前に立っています。ちくま味噌は現在でも商いをしている江戸の老舗です。

永代橋は討ち入りの5年前に隅田川最下流の橋として江戸第一の長橋で



した。すぐ近くに佃島が浮かんで見えていたようです、現在の橋は旧時より約150m南にかかっています。



旧赤穂藩浅野邸は浅野内匠頭長矩の生誕の地であり浪士一行はここで上野介の首を差し出し仇討ち成就の儀式を行いました、現在は聖路加病院の敷地で築地川公園の前に碑があります、その横には文豪芥川龍之介生誕の地の碑がたっています。



築地本願寺に浪士間新六の墓があります、新六の遺骸は姉婿の中堂又助によって当寺に葬られました、築地本願寺はもともとは浅草にありましたが明暦の大火で焼失寛文元年に築地にたてられました。大火で町中うず高く積まれた瓦礫や残土を利用して築かれたのが今日の築地の始まりです。本願寺はその後大正12年の関東大震災で焼失しましたが昭和9年

に今のような古代インドの石造寺院様式のお寺が出来ました。

浪士一行は汐留橋、金杉橋、三田八幡を通り無事泉岳寺に辿りついて主君・浅野内匠頭長矩の墓前に上野介の首級を供えました。



泉岳寺 萬松山泉岳寺は曹洞宗の寺で寛永18年(1641)の大火で外桜田から移されました。浅野家の菩提寺 境内左手の奥が墓所で四十六士が眠っています。(特命を受け討ち入りの結果を報告するため消えた寺坂吉右衛門(83歳で天寿をまっとう)と忠と孝のため自殺した萱野三平の供養塔もいれると48あります)、墓所入り口の門はもと浅野家の鉄砲州上屋敷

の裏門であり内蔵助が屋敷を訪れる際によく出入りした門で明治初年に移築されたものです。境内には上野介の首を洗った首洗い井戸や義士の遺品を陳列する記念館、田村邸から移植した血染めの庭石と梅ノ木があります。

墓所入り口の門

大石内蔵助の墓

血染めの石



関連の歴史舞台

1



2



3



4



5



1. 事件の発端となった江戸城刃傷松の廊下跡

2. 浅野内匠頭終焉の地 田村邸にて切腹（新橋4丁目）

辞世の句

「風さそう花よりもなお我はまた春の名残を如何にとかせん」

3. 遥泉院（内匠頭夫人）居宅跡 赤坂氷川神社境内

4. 南部坂内蔵助は討ち入り前日遥泉院に別れの挨拶に訪れる雪の南部坂涙の別れ  
歌舞伎の名場面の一つで思わず涙を誘います

5. 大石内蔵助（切腹の泉邊）近く高松の宮邸

辞世「あら楽し思いははるる身は捨つる 浮世の月にかかる雲なし」

#### もう一つの忠臣蔵・・・東北に残る大野九郎兵衛伝説

浅野内匠頭が切腹した時の国許の家老は大石内蔵助と大野九郎兵衛がいましたが大野は城明け渡しの前に逃亡した人物として汚名を着せられています。しかしながら作家童門冬二氏は著書「名家老列伝」の中で大野は城明け渡し前に藩の借金、藩札の回収、浪士たちの退職金の支払いに経営手腕を発揮した人物で大いに学ぶべき事があると言っています。

ところで山形県板谷峠に大野九郎兵衛の墓と言われる一基の碑があります。それにまつわる話を著者が紹介しています。大野は大石と「あくまで吉良に復讐しよう」と誓い赤穂城下から東北の地に逃亡し、大石が討ち入りに失敗すれば吉良は息子の米沢藩主のもとに逃げて行くだろう、米沢に入るには必ず板谷峠を通る、そこで大野達は何人かの仲間たちとともに獵師に姿を変えてこれを待つそして大石に討ち漏らされた吉良が峠を通ったとき襲撃する策をとった、しかし江戸での大石の仇討ちが成功し喜んだ大野と仲間は[これで思い残す事はない]と見事に腹を切ったといわれています。板谷宿の主人が感動して大野九郎兵衛というのはけっして世間で言われるような脱走者ではなく立派な人だといって弔いの墓を立てたといわれています。しかし世間をおもんばかって大野九郎兵衛とは書かないで単に南無阿弥陀仏と書いたと伝えられています。世間一般では作り話と言う説が多いなか当地を訪れた童門氏は大野九郎兵衛伝説に好意的な見方をしているようです。

品川は古くから漁業と海運で栄えた港町であります。品川の繁栄を決定づけたのは江戸幕府が東海道53次の初駅にしたことです。品川宿は中山道の板橋宿、奥州街道の千住宿、甲州街道の内藤新宿とともに「江戸四宿」に数えられ東海道筋で随一の繁栄を築きました。

品川宿は吉原に次ぐ遊郭でもあり、江戸の庶民が参詣に訪れる寺社も多く御殿山の桜や海晏寺の紅葉など四季を通じて楽しめる人気の行楽地だったと言えます。

品川駅西口(高輪口)から歩き八ツ山橋をわたると旧東海道の入り口になります。今回は旧東海道を中心にその周辺をのんびり訪ねてみました。

### 品川宿コース

- ① 問答河岸跡→②土蔵相模→ 利田神社・鯨塚→④品川本陣跡→  
⑤品川神社→⑥ 東海寺・沢庵和尚の墓→⑦清光院→→⑧品川寺

#### ① 問答河岸跡



寛永17年東海寺を訪れた3代将軍家光を沢庵和尚がここに案内した時に家光は品川の海を眺めながら「海近くして東(遠)海寺とはこれいかに」としかけたところ沢庵は「大軍のみを率いても将(小)軍と言うが如し」と返答したと言われています。以来ここを問答河岸と呼ぶようになったと言われています。事実是不明ですが「徳川実記」には記述されているよう

です。

#### ② 土蔵相模跡



現在はマンションになっていますがここにかつて品川宿きつての大旅籠「相模屋」があったナマコ壁の外観が土蔵のように見えたので「土蔵相模」とよばれたようです。

幕末には桜田門外の変(1860)の前夜水戸の浪士らが集合して氣勢をあげたほか、高杉晋作や久坂玄瑞らが外人襲撃計画など尊攘派の志士たちが頻りに利用した旅籠です。

江戸時代は旅館であり又妓楼でもあったようです。

#### かがだじんじゃ 利田神社・鯨塚



ここの神社は沢庵和尚が東海寺の鬼門除けとして勧請した弁天堂がはじめと伝えられており弁天堂は安藤広重の浮世絵にも描かれています。境内には「鯨塚」があります。寛政10年(1798)品川沖に迷い込んだ鯨を捕らえたことが江戸市中で大評判となり見物人が絶えないほどであり時の将軍家斉も見物したようです。



#### ④ 品川本陣跡



品川本陣は現在聖蹟公園になっています。品川宿には本陣が1ヶ所、脇本陣が2ヶ所置かれていました。本陣、脇本陣の主人には宿場を代表する名家の当主が任命され屋敷を提供しました。明治元年、明治天皇が初めて東京に下ったときに品川本陣に宿泊したことにちなみ聖蹟公園と命名しました。

#### ⑤ 品川神社



品川神社は北品川の総鎮守、北の天王さまとして親しまれてきました、文治3年(1187)に源頼朝が安房国の須崎大明神を勧請したのが始まりとされています。品川神社は北の天王祭りと呼ばれ祭礼に担ぎ出される大神輿は3代将軍家光が寄進したもので葵の紋がついています。

宝物殿：家康が寄進した神楽に使われる神面や家光寄進の大神輿、家康、家光朱印状大型絵馬等が宝物殿に陳列されています。



板垣退助の墓：社殿の墓地には板垣退助の墓があり「板垣死すとも 自由は死なず」の有名な言葉が刻まれています。

#### ⑥ 東海寺と沢庵和尚



東海寺は山号を「万松山」といい京都臨濟宗大徳寺の末寺。3代将軍家光の命により寛永14年(1637)沢庵のために創建されました。

##### 沢庵和尚

禅僧の中でもっとも一般的に知られているのは一休、沢庵、白隠の3人です、沢庵は吉川英治の小説「宮本武蔵」に登場しますが武蔵とは小説の

中の話のようです。

寛永4年(1627)紫衣事件が起こり大徳寺、妙心寺の住職の住持は天皇の詔で決まっていたが今後は幕府が許可を与え天皇の權威をそぎ命令に服さない者の紫衣を禁止した為沢庵は怒って上京し反対派をまとめて反対運動をおこします、幕府は中心人物の沢庵を羽州(山形)の上ノ山に流罪としますが3年後将軍秀忠の死による大赦があり許され江戸に帰ってきます、家光は柳生宗矩の言葉を聞き入れ品川に4万坪の土地を与え東海寺を建て沢庵を迎えました。これを受け入れたときから沢庵はこれまでの野僧に徹すべしの生き方を捨てました。そして自分を権力者にこびる「つなぎ猿」とあざ笑い、晩年の生活は決して喜んではいなかったようです。

正保2年(1645)に73歳で没しましたが弟子が遺言を求めると「夢」の一字を書いて筆を投げるように

して息を引き取ったと言われています。「葬式はするな、香典は一切もらうな、死骸は裏山に捨てて二度とまいるな、墓をつくるな、朝廷から禅師号を受けるな、位牌をつくるな、年譜を誌すな」の遺言をのこしています、しかしながら墓はたくあん漬けの石のような墓がつけられました。

#### ⑦ 清光院・奥平家墓所



境内墓域に奥平家(美濃10万石)の大名墓地があります、典型的な大名墓地の旧態をよくのこしています。

#### ⑧ 品川寺



品川寺は大同年間(806~810)の開創と伝えられる古刹。門前の大きな地藏菩薩は宝永5年(1708)に造立されたもので高さは5メートル弱、江戸六地藏の第一番とされています。





今回は江戸文化の薫りを深く残す湯島聖堂・湯島天神を中心に神田明神や春日局が眠る麟祥院を訪ねてみました。

## 1. 湯島聖堂

大成殿



聖堂の大成殿に孔子像が安置されています。大成殿には第一の門(仰高これをおもんばかればいやたかし：論語の「仰之弥高」が出所)第二の門(入徳門：聖人の教えで道徳に入る門)第三の門(杏壇：孔子はかつて「杏の木のある壇」の上で弟子たちに学の道を説いた)をくぐっていきます。聖堂は江戸の大火、関東大震災でほとんどが焼失してしまいましたが入徳門だけが厄をのがれ今日に至っています。



聖堂内に楷の木が植わっていますがこの木は漢字の書体楷書の語源となっており親木は孔門十哲の一人子貢が植えた楷樹です



楷の木

5代将軍綱吉は、上野忍岡の林羅山の別邸内にあった孔子廟を現在地に移しました。

ここで儒学を通しての講書等が行われました、8代将軍吉宗は自ら講義を開き、庶民に開放する画期的な施策を打出しています。その後その周辺に昌平坂学問所が建ち明治政府に受け継がれここが近代文教発祥の地となりました。綱吉によって現在地に移してから聖堂前の坂を昌平坂と命名しました。昌平の名は孔子が中国魯の国の昌平郷に生まれたことによるものです

現在の聖堂は昭和10年に復興したものです

### 徳川の文治政策

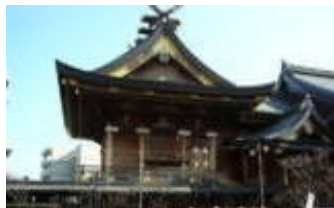
徳川幕府270年が続いた要因は様々な事が挙げられていますが家康いらい堅持した文治政策の効果は大きかったようです。林羅山が説く朱子学が[分を重んじる]ことを重視したことが徳川体勢の秩序を維持するのに好都合であった為、幕府が朱子学をもって官学と定めたわけですから。



ちょっと寄り道.....湯島聖堂隣の神田明神に寄ってみました。運良きやり木遣りの風景に出会いました。神田明神は又の機会に取り上げてみたいと思います

## 2. 湯島天神

## 1) 湯島天神の由来



湯島郷民が霊夢によって京の北の天満宮から、ここ天神の古松の下に勧請し湯島天満宮と称されたのが由来です。その後太田道灌により再興、家康が江戸入部により湯島天神に朱印地を寄進し將軍直臣の大名交代の際には必ず参拝するようになったことにより昌平坂の聖堂や神田明神、麟祥院など著名な神社・寺院が相次ぎ移転、創建され人々が集まるところになりました。交通の便が開かれると湯島天神は靈驗あらたかという評判をとり参詣人の群集雑踏する日には迷い子は後を絶たず[迷子知らせ]の石標（奇禄氷人石）がたてられました、迷子をだした親はわが子の特徴、服装などを紙にしたため右側面の「たずねるかた」に貼り付けておく逆に迷子を引き取っているものは「をしゆるかた」の面にその特徴を書きつけ貼り付けました。この石標が結構役に立ったようです。



[湯島神社は、菅原道真公を奉祀し、湯島天満宮または湯島天神と通称される]と湯島天神誌に記されています。

菅公を祀り学問知恵の神様として広く信仰を集めているのは菅公が学問に優れ、書を能くし、ひたすら誠をもって処した聖人であったからといわれています。

東風吹かば匂いおこせよ梅の花  
あるじなしとて春な忘れそ

## 2) 湯島天神の富くじ

湯島天神が江戸っ子の足を惹きつけたのは天神の御利益もさることながら江戸時代中頃から寺社奉行公認の〔御免富〕が谷中感応寺、目黒不動、湯島天神で行われるようになり中でも湯島天神は神田や日本橋から近く地の利の為とりわけ栄えたようです。

二朱持ったら飛んで来な。湯島の富は六百両 などと喧伝されました

## 3) 泉鏡花 [婦系図]



泉鏡花の「婦系図」は明治40年に発表されました、主人公早瀬主税は元柳橋の芸者お蔦と所帯を持ちますが師の反対にあいお蔦に離別をいったださなくてはならない羽目になり春の一夜お蔦を梅が香る湯島天神に誘い出し別れを告げる場面があります

お蔦：「切れるの、別れるのって、そんなことは芸者のときにいうも

のよ」

主税：「月は晴れても、こころは闇だ」

また「湯島の白梅」のレコードが昭和17年にビクターから発売されヒット曲となり湯島天神は一層全国に知れわたりました。

湯島とおれば 思い出す お蔦 主税の心意気  
知るや白梅 玉垣に 残る二人の 影法師  
社前の公園に「泉鏡花筆塚」の碑が建てられています。



湯島天神より10分ほど歩いたところに春日局の墓がある麟祥院があります、元々は臨済宗の禅寺で天沢寺とっていましたが局の法号にちなみ麟祥院と改めました。

春日局の家光に対する献身は有名で家光が疱瘡で死にかかった時に身に変えてもと祈り、平癒後は祈願の際の約束どおり死ぬまで一切薬を飲まなかったと言われています。春日局の墓は死後もあの世から徳川政権を見守ると言う意味で墓石には丸く穴があいています。

今回はしだれ桜と江戸時代を代表する大名庭園として知れわたる駒込・六義園を散策後江戸の歴史を彩った多くの著名人が眠る巣鴨周辺の古刹を巡ってみました

## 今回のコース

六義園 ⇒真性寺 ⇒高岩寺（とげぬき地藏）⇒本妙寺 ⇒慈眼寺  
⇒勝林寺 ⇒染井霊園

### [ 六義園（国特別名勝） ]



5代将軍綱吉の信任が厚かった川越藩主柳沢吉保が綱吉から拝領したこの地に7年の歳月をかけ自ら設計指揮して完成した和歌の趣味を基調とする回遊式築山泉水の江戸時代を代表する大名庭園です。光圀の小石川後楽園と並んで江戸の2大庭園と呼ばれていますが後楽園の儒教趣味とは対照的に吉保の文芸趣味が色濃く反映されています。

#### 《 園名の由来 》

六義園の名は、中国の詩の分類法(詩の六義)にならった古今集の序にある和歌の分類の六体に由来したものです。柳沢吉保自身の撰した「六義園記」では「むくさのその」と呼んでいました。

\*園内の枝垂桜は都内でも有名な桜で花季の千条の滝が流れる姿は見ごたえがあります。  
3/18~27まで園内はライトアップされます

しだれ桜



茶室



## 柳沢吉保

柳沢吉保は犬公方(生類憐れみの令)とよばれた5代将軍綱吉の寵愛をことのほか受けて、わずか5百石の小姓から川越7万石、更に甲府15万石までの大老格に出世したため綱吉やその母である桂昌院に取り入って出世した成り上がりものと言われたり忠臣蔵では悪役のイメージが強い人物ですが実際は学才もあり有能な人物であったようです。綱吉がなくなってからは六義園に移り亡くなるまでここで余生を過ごしました。六義園の隠居生活は実に華麗で俳諧や芝居、庭いじりがほとんどのようでした。

### [ 巣鴨の古刹 ]



## 1. 真性寺

8代将軍吉宗が鷹狩の御膳所としてしばしば休息した寺。本堂前の笠をかぶった地蔵菩薩坐像は江戸六地蔵の一つとして名高い。芭蕉の句碑「志ら露もこぼれぬ萩のうねり哉」があります

## 2. 高岩寺(とげぬき地蔵)



慶長元年(1596)頃の創建、明治24年に下谷(台東区)から現在地に移りました。本尊の延命地蔵尊の姿を刷った護符を飲むと体内のトゲが抜け病 気も治ると言われ広く庶民の信仰を集めています。また境内の浄行菩薩も人気があり水をかけ自分の悪いところと同じところを洗うと治ると言われ長蛇の列が出来ています。厄除けに護符を買って、菩薩に水をかけてきました。

## 3. 本妙寺



本郷丸山町にあった時、明暦の大火(1657年)の火元として有名になった寺であります明暦の大火(振袖火災)については2話で詳しく取り上げていますが幕府の要請により火元の汚名をかぶったのが真相のようであります。明治44に現在地巣鴨に移りました。

墓地には江戸町奉行遠山金四郎、北辰一刀流の千葉周作、 囲碁の本因坊歴代の墓等があります。

## 4. 慈眼寺

日蓮宗の寺で元和元年(1615年)の創建で境内墓地には幕末の洋画家・司馬江漢吉良家の剣客小林平八郎や芥川龍之介等の墓があります。

## 5 勝林寺

元和元年に創建の臨済宗の寺で中興開基の田沼意次とその一族の墓があります、意次は将軍家重・家治に重用されて「田沼時代」を築きましたが、賄賂政治の横行により攻撃され失脚してしまいます。

## 染井霊園

もと播磨林田藩建部家の下屋敷、明治7年公営墓地となりました。霊園内は伊勢津藩主藤堂家の墓、岡倉天心、高村光太郎・智恵子、二葉亭四迷等の著名の墓があります。その名のとおり染井吉野の桜並木もありこれからは見所です。

## 染井吉野

染井吉野の染井は江戸近郊の染井村にちなんだものですがこの地には昔から植木職人が造園業を営んでおり幕末に江戸ヒガシと大島桜を掛け合せてつくったのが染井吉野といわれています。明治の初めに瞬く間に全国に広がっていききました桜

前線の判断基準になっているのが染井吉野です。

## 第12話 江戸城お濠端一周

定年を機会にはじめました「江戸ぶらり足袋」もあつという間に4月で2年目を迎えました。

全く自分の趣味で始めたことではありますが皆様の心温まるアドバイスや激励によりなんとか続けてまいりました、今後も30話を目標に続けてまいりたいと思います。

第1話で太田道灌と江戸城を取り上げましたが、今回は江戸城のお濠端を散歩しました

4月16日(土)天候も良く丁度東京メトロウォーキング会にぶつかり多数の人が旧江戸城コースを歩いていました。桜はすっかり散ってしまったと思っていたのですが、枝垂れ桜が満開で花見をかねた思わぬ一日となりました。

### 江戸城お濠端一周

桔梗門 ⇒ 坂下門 ⇒ 二重橋 ⇒ 桜田門 ⇒ 半蔵門 ⇒ (乾門)

北桔橋門 ⇒ 天守閣跡・松の大廊下跡・大奥跡 ⇒ 平川門 ⇒ 大手門

#### ① 桔梗門

正式には内桜田門と言っていますが太田道灌の家紋の 桔梗入りの瓦が残っていた事から一般に桔梗門と呼ばれています

#### ② 坂下門

文久2年(1862)正月15日の朝老中安藤信正の登城行列が水戸浪士に襲撃された「坂下門外の変」の場所です、浪士たちは信正が推進した和宮降家に激怒して襲ったのですが6人全員返り討ちになりました。

#### 二重橋



めがね橋・二重橋・奥には白壁の美しい伏見櫓があります 伏見櫓は寛永5年(1628)京都の伏見城から移築したものです。

小学校の頃確か二重橋大惨事があった記憶があります、新年の一般参賀に多数の人が二重橋で人があふれ圧死したり橋から落ちたりしてかなりの死者がでました。実際はめがね橋の惨事であったわけですが二重橋大惨事として報道されました。その後めがね橋は改修され人員整理を行うようになりました。二重橋はめがね橋のさらに先の橋を言いますが

掘が深かった為橋を二重に作ったことから名前がついたようです。

#### ④ 桜田門



万延元年(1860)3月3日の雪の朝老中井伊直弼の登城行列が桜田門外の濠端で水戸、薩摩の浪士に襲撃された「桜田門外の変」として有名な場所です。この門は江戸城の 枳形門の姿を完璧に残す貴重な遺構として国重要文化財に指定されています。

#### ⑤ 半蔵門



半蔵門の名前は江戸城の搦め手(裏門)の警護にあっていた伊賀組の頭領服部半蔵の組屋敷が近くにあった事に由来しています。

### 服部半蔵

本名正成家康が三河にいたときから仕えた身で家康16将の一人に数えられる武将、姉川の戦い、三方ヶ原の戦いなどで槍働きの戦功を重ね「鬼半蔵」と呼ばれました。織田信長は娘を家康の長子信康に嫁がせましたが警戒心を解くことなく、ある時うわさにすぎない信康の乱心を口実に信長は信康に切腹を申し付けました、家康は断腸の思いで信康に切腹を命じ半蔵に介錯を申し付けましたが半蔵はついに介錯ができず、のちに家康に「鬼と言われた半蔵でも主君を手にかけることは出来なかった」と感嘆させたとのことです。後に半蔵は仏門に入り西念と号しました。1582年信長の招きで家康が少数の供のみを連れて上方を旅行中に本能寺の変が起こりますが、このとき堺に滞在していた家康が甲賀・伊賀を通して伊勢から三河にぬける「伊賀越え」に際し伊賀出身の半蔵は商人茶屋四郎次郎とともに地元の土豪と折衝、警護させて一行を安全に通行させたと言われています。半蔵はその後も功績を上げ1590年の家康関東入府後、与力30騎及び伊賀同心200人を付属され8000石を領しました。半蔵は家康から信康の霊と徳川家忠魂の冥福を祈念するために一字建立の内命を受けますがその願いは果たされず55歳の生涯を閉じました

その後その地に寺院が出来その名を服部の号に合わせて「西念寺」としました、そこには半蔵の墓、信康の供養塔が立てられています。そして本堂には家康から賜ったと言う槍が残されています、お寺の方に槍を見せてもらうようお願いしたのですが、あいにく当日法事があり槍を見る事は出来ませんでした。

(何もなければいつでも槍を見せてくれます)

今度近くに行ったときに寄ってみようと思います

西念寺：四ツ谷駅近く 新宿区若葉2丁目9番地

### 半蔵の墓



### 信康供養塔



⑥ 北桔橋門(きたはねばしもん)この門の名前はよみかたは非常に難しく皇居警備員に聞いたらこの橋は外部から攻められたときに敵が城に入れないように橋が真ん中で開く(はねる)ようになっていることからついた名前ようです桔の字は敵にはねることが悟られないようにわざと読めない字にしたようです。この門から東御苑に入れます第1話でも紹介しましたが天守閣跡、松の大廊下跡、大番所等あり江戸歴史を彷彿させます、また庭園にはいろいろな草木や花が植わっており憩いのひと時がもてます

### ⑦平川門



この門は大奥での死者や浅野内匠頭、絵島・生島事件で高遠に流された絵島等の罪人を送り出した門であり不浄門といわれています。(この門からも東御苑に入れます)

## ⑧ 大手門

旧江戸城の正門、諸藩の大名はこの門より登城 豪勢で典型的な枡形門です。警護は10万石以上の譜代大名が受け持ったといわれています。東御苑にはこの大手門からがよいと思います。

四谷に出かける用事がありましたので、服部半蔵が眠る西念寺と四谷怪談で知られるお岩稲荷によってみました。



西念寺は江戸ぶらり足袋12話（江戸城お濠端一周）で紹介しておりますが前回訪問した時には丁度法事にあたってしまい半蔵の槍を見せてもらうことができませんでした。今回改めてお願いしたところ快く了解してくれまして本堂に案内していただきました。半蔵は家康16将の一人に数えられ優れた武将であります、特に槍の半蔵と言われ槍の名人だったと伝えられています。家康が半蔵に賜った槍が西念寺にあります。昭和20年の東京空襲で先端30センチと槍尻150センチとが欠けてしまい現在は全長が258センチ程になってしまいました。

それにしてもこんなに長い槍をよくつかえたものだと思われ流石槍の名人と感服しました。半蔵の墓はこの西念寺にあります。西念寺の名前は半蔵が仏門に入って西念と号していたことによるものです。ちょうど桜が満開で大変きれいでした。



四谷怪談で知られたお岩稲荷も四ツ谷駅から歩いて15分ほどのところにあります。お岩稲荷は江戸の初期四谷左衛門町で健気な一生を送った女性の美德を祀った神社で福を招き商売繁盛の利益があるという評判の神社です。お岩が亡くなって200年も人気絶えないお岩の名前を使って歌舞伎作者の鶴屋南北が江戸の元禄時代に起こった事件を基に刺激を好む江戸っ子を呼び寄せるため脚色して東海道四谷怪談を作ったものです。南北が虚実取り混ぜてお岩の怨霊劇として創作したものです。江戸時代よりお岩稲荷神社は歌舞伎の上演前には役者やその関係者は上演の無事を祈って参拝しましたが現在でもその習慣は続いているようです。

## 第13話 桂昌院と護国寺 芭蕉と神田上水

今回は5代将軍綱吉の生母桂昌院と護国寺、俳聖松尾芭蕉と神田上水にちなんだ話を中心に取り上げてみました。

### 1. 江戸のシンデレラ



桂昌院は京都の八百屋の娘として生まれましたが美貌をみこまれ丹後宮津藩主・本庄宗利の養女となりやがて大奥入りし名をお玉と改めました、美貌と活発さにより3代将軍家光の寵愛を受け2人の男児を産みます、しかしながら家光には正室のほかに8人の側室がいたので将軍継承には程遠かったのですが・・・慶安4年(1651)家光がなくなり正室に子がいなかった側室お楽の方が産んだ子が4代将軍となりました(家綱)



お玉の方は未亡人となったため剃髪して桂昌院と名乗りました、時に26歳。ところが今度は家綱が跡継ぎのないままにこの世を去ってしまいました、将軍職の継承者は桂昌院の子徳松だけが残り5代将軍綱吉が誕生しました(桂昌院57歳のときです)生母桂昌院はまさに江戸時代のシンデレラになったわけです。護国寺は5代将軍綱吉が生母桂昌院に捧げる為に建てた大寺です。

亮賢僧正を開山に迎え上野の寛永寺、芝の増上寺と並ぶ一大伽藍は徳川家の祈願所として隆盛を極めました。正門の朱塗りの仁王門をくぐり境内に入ると不老門・本堂・大師堂・月光殿と由緒の深さを思わせてくれる建物は江戸の歴史を物語ってくれます。

月光殿



大隈重信の墓



護国寺の門前町として栄えた音羽町の通りは桂昌院が大奥に仕えていた奥女中音羽に土地を与え家作にあたらせたために付いた地名であり、音羽の他にも青柳、桜木の町名も奥女中の名によるものようです、音羽町や青柳小学校など今でも地名が残っています。

### 2. 神田上水と芭蕉

芭蕉庵



護国寺から不忍通りに沿って歩き目白通りにぶつかったところで江戸川橋に向かってぶらつきました、途中日本女子大、故田中角栄の目白御殿を通り細川家ゆかりの永青文庫を過ぎると江戸川(旧神田川)になります、この神田川の修復工事の現場監督をしていたのが俳



聖松尾芭蕉です、ちょっと想像が付きませんね芭蕉は伊賀の国(三重県)に生まれ城主、藤堂良精に仕えその子、良忠の近侍でした。良忠は蟬吟と号して俳諧を楽しんでいました。

#### 大洗堰跡



芭蕉が俳諧に指を染めるようになったのは良忠の影響と思われます。良忠は若くして亡くなった為芭蕉は江戸に出て俳諧の道で生活を立てる決心をします、しかしながら江戸での俳諧としての生活は厳しく生活のために追われてアルバイトをしながら江戸市中を転々としていました、神田上水の改修の折土木・水利の技術で知られた藤堂藩が指名された事を知った芭蕉はつてによって工事監督となり約4年ここに暮らしました。江戸川公園には大洗堰の跡があります、この堰で水位を上げ水戸の上屋敷(後楽園)に送りそこから樋で

神田、日本橋へ給水をしていました。

芭蕉が暮らした家は後に弟子たちによって関口芭蕉庵が建てられました。

#### 故田中角栄邸



#### 永青文庫





今回は江戸時代より江戸市中で最も高い山(と言っても海拔26メートルです、現在では東京23区で最高)として親しまれ四季折々の風情を残しています愛宕山。度々訪ねた場所ですが急坂の石段は年のせいか頂上まで一気に登れませんでした。

鉄道唱歌 汽笛一聲新橋をはや我汽車は離れたり  
愛宕の山に入り残る月を旅路の友として・・・・・・  
全国に知れわたった愛宕山を訪ねてみました。

## 愛宕山

### 1 . 寛 永 の 馬 術 の 名 人 曲 垣 平



小学生の頃ラジオで聞いた講談は今でも記憶に残っています。 寛永11年徳川2代將軍秀忠の命日に3代將軍家光が芝増上寺参詣の帰り愛宕山にさしかかった時に、山に咲き誇る源平の梅の花を賞し「だれかこの坂を馬で上って梅の花を折ってくる者はおらんか」と言ったが急坂の石段を見て皆がしり込みをしてしまった、すると四国丸亀藩の家臣曲垣平九郎が颯爽と馬にまたがり石段を上り、社前に国家安

泰を祈念し梅花を手折りし騎馬にてこの急坂を下り梅花を將軍に献じたところ家光は大いに喜び、この安泰の世に良く馬術の訓練を怠ることなく立派であったと賞賛し平九郎を日本一の馬術の名人と認めたとのことです。曲垣平九郎はこのことにより出世した為男坂の石段を出世坂と呼ぶようになりました。寺や神社には坂がつきものですがこの石段は86の急坂で、これほどの急坂はまずないでしょう、こんな急坂を馬で上り下りしたというのは作り話ではないかと思われがちですがどうやら事実とおもいます、後年明治15年には宮城県馬術師石川清馬が同じく騎馬で上下、大正14年には参謀本部岩木利夫が遠乗のさい愛宕山にさしかかったとき馬首を翻し男坂を上下し妙技を披露している事からも曲垣平九郎の話は事実と思えます。ところでこの急坂の傾斜は約40度です、山形蔵王のスキー場のゲレンデ・横倉の壁は大体同じぐらいの傾斜ですが壁の上から下を覗いた時には足がすくむくらい斜でした

### 2. 愛宕神社の由来



なぜ愛宕かというと京都の愛宕神社になぞられて建立したのではないかと言われています。京都の神社・仏閣を真似て江戸につくった寺社は結構多く上野の寛永寺が京都の比叡山を模してつくったのも一例です。

鎮座は慶長8年(1603-江戸幕府開府)に奉行石川六郎左衛門が幕命により建立した為幕府の尊崇により繁栄しました。

愛宕神社千日詣り

6月24日は愛宕の千日詣りといい神社草創の時からこの日に参詣すれば千日の利益があると言って大勢の人の参詣があったと伝えられています、又この日にほほづきを縁起にだすいわれは昔愛宕様のお告げを受けた人が愛宕山のほほづきを子供に飲ませれば虫の薬になり、婦人に飲ませれば癩の薬になったことから靈驗あらたな“あたごのほほづき”として多くの人に珍重されたと言われています。

### 3. 勝海舟と西郷隆盛

明治元年官軍が江戸城総攻撃をする時に幕軍の将・勝海舟が官軍の参謀西郷隆盛を愛宕山に誘い眼下に江戸の市外を見ながら「この繁栄している大江戸が火の海となったらどうする、それでもいいのか」と西郷を説得しついに三田の薩摩屋敷で江戸城無血開城の調印にいたったと言われています。

### 4. NHK愛宕山



愛宕山頂上で大正14年7月本放送が始まり愛宕山は“放送のふるさと”と呼ばれるようになりました

NHK放送博物館:1956年に世界最初の放送専門のミュージアムとして愛宕山に開設、番組公開ライブラリーや図書資料ライブラリーなどが公開されています。入館は無料で館内の設備もなかなかととのっています。

尚86段の急坂の石段を登るのがきつい方はトンネルのそばにエレベーターができましたのでこちらを利用ください、あっという間に頂上に着きます。

## 第15話 小塚原と江戸四宿（千住宿）

今回は幕末に杉田玄白等が腑分けを見てオランダの医学書ターヘル・アナトミアの翻訳を決心したといわれる南千住の小塚原や江戸四宿の一つ千住宿を訪ねてみました。

### 1. 千住小塚原

#### 1. 解体新書と千住小塚原

現在の南千住は昔「小塚原」と呼ばれていたところで大森の鈴ヶ森と並ぶ江戸幕府の2大刑場でした。小塚原は日本の西洋医学の曙といわれるオランダの医学書“ターヘル・アナトミア”の翻訳を杉田玄白、前野良沢、中川淳庵らが罪人の腑分けを見に来て医学書がいかにか正確に書かれているかに感嘆しその帰り道に翻訳を決心したところでした。

ターヘルアナトミアの翻訳・解体新書は3年後の安政3年(1774)に完成しました。小塚原の回向院に解体新書の説明がされている[観臓記念碑]の銅版のレリーフがあります。この回向院には安政の大獄で刑死した幕末の志士橋本佐内・吉田松陰や義賊ねずみ小僧次郎吉等が葬られています橋本佐内は緒方洪庵、新井白石に医学・洋楽を学び若くして越前藩主松平春嶽に認められ藩政に手腕を振るいますが將軍擁立問題で春嶽は蟄居橋本佐内は安政の大獄で刑死、一方吉田松陰は松下村塾を開いて幕末に多くの俊秀を育てますが同じく安政の大獄で処刑されました。幕末の日本にとってかけがえのない人物でしたが佐内26歳、松陰は29歳で共に30歳に満たない若さでした。

\*小塚原の由来



八幡太郎義家が奥州征伐して賊首を埋め首塚48基を築いたことによりこれらの地を小塚原と呼んだと言われています。

延命寺首切地蔵：刑場の一角に刑死者の菩薩を弔うために石の地蔵が建立されています寛保元年(1741)に高さ一丈二尺の石の地蔵が建立されました。

### 円通寺

回向院から少し歩くと日光街道に面したところに円通寺があります、円通寺は延暦10年(791)坂上田村麻呂將軍により開創されたと言われています、この寺には上野寛永時の総門(黒門)が保存されていますが黒門は上野戦争で官軍に撃ち込まれた無数の弾痕が残っています。円通寺の住職が彰義隊の墓をここに建てた縁で寛永寺の黒門が千住の円通寺に寄贈されました。

回向院

橋本佐内の墓

吉田松陰の墓



解体新書レリーフ



18基首塚



寛永寺黒門



## 2. 江戸四宿 千住宿

円通寺から日光街道に沿って歩きますと千住大橋が姿を現します。「江戸名所図会」は“千住大橋一荒川(今の隅田川)の流れに架す、奥州の咽喉なり・橋上の人馬は格糺として間断なしや”と街道の賑わいぶりを記しています。この千住大橋は文禄3年(1594)に隅田川に架けられた最初の橋です。千住大橋の袂に公園があり奥の細道の矢立初めの碑が立っています。「行春や鳥啼魚の目は泪」の句が刻まれています 芭蕉は深川から見送りの人たちと一緒に舟に乗り千住で降りて奥州・北陸600里の行程を一步踏み出しました、千住大橋を過ぎしばらく歩きますと江戸四宿の一つ千住宿～現在の北千住駅近辺に着きます。往時の千住宿本陣は堂々とした門構えで建坪も120坪もありましたが今日では面影を残してありません。しかしながら旧日光街道の千住宿通りには名主の横山家の母屋や絵馬屋が現存しており宿場町の雰囲気をかもし出しています、宿のはずれには江戸末期開業した長屋門の名倉医院が現在も開業しています。名倉医院は骨接ぎとして評判が高く遠方からも多数の患者が駆けつけた為旅籠を経営し治療にあたったとのこと。

ところで千住の地名の由来であります諸説の中で信憑性が高いと思われるのは勝泉寺(赤門寺)に祀られている千手観音によるものようです、嘉暦2年(1327)新井図書政次という人が荒川で千手観音を拾って祀ったことによるものです、千住観音の千手が千住に変わったようですが地名にはよくある話です。

千住大橋

芭蕉矢立ての碑

宿場町通り



横山家母家



名倉医院



絵馬屋



勝泉寺





今回のぶらり足袋は門前仲町から木場にかけての江戸情緒を残す深川一帯と少し足を進めて俳聖芭蕉の芭蕉庵や紀伊国屋文左衛門の別邸があったと言われる清澄庭園を訪ねてみました

## 深川・森下周辺

### 1. 深川の由来

深川の地名は家康が江戸に入府してからです。もともとこの地は海辺の茅野の一角でしたがその土地を埋め立て開拓をしたのが深川八郎右衛門です。家康が鷹狩に来た際「ここはなんと言う土地なのか」と尋ねた時に八右衛門が「ここは埋め立てたばかりで名もありません」と答えると家康は汝の名を村名にせよといったことから深川の名がついたと言われています。

### 2. 門前仲町と富岡八幡宮

門前仲町は富岡八幡宮の別当寺、永代寺の門前町です。町名からモンナカで親しまれるようになりました。

#### 富岡八幡宮

##### 富岡八幡宮



寛永4年(1627)菅原道真の子孫僧長盛聖人が創建。京都で高名な長盛聖人が夢の中で八幡大菩薩からお告げを受け江戸にくだり永代島を訪ねてみると夢のお告げの場所がありここに八幡宮を勧請したと伝えられています江戸勸進相撲発祥の地が八幡宮境内で貞享元年(1684)に行われました。

##### 横綱力士碑



火災で焼けた八幡宮本殿の再建が目的でした。明治28年に12代横綱陣幕が奔走して横綱力士碑を建てました。初代明石志賀之助から歴代横綱の名が刻まれています。

##### 神輿



富岡八幡宮の夏祭りは神田祭、赤坂山王さん、浅草三社さん、とともによく知られていますが深川っ子は日本一大きな神輿として自慢の神輿でした。神輿は紀伊国屋文左衛門が寄付をしたといわれています残念ながら江戸の神輿は火災の為に焼けてしまいましたが昭和になって佐川急便の会長が江戸の神輿を再現し寄付しました。

##### 伊能忠敬像



境内には幕末に日本全国を足で測量し日本全図を完成させた伊能忠敬像があります忠敬



は10次にわたる測量の出発の度にこの富岡八幡宮を詣でたといわれています。

### 3. 深川と言えは

#### 《木場》

木場 親水公園



木場は材木置き場の地名ですが、家康が江戸城と町の建設にかかると木材が江戸に集中し材木置き場が各所に出来ました、神田材木町、麻布材木町、浅草材木町、新材木町などの地名がありました、しかし明暦の大火により江戸市中の大半が焼き尽くされた為、防火対策の一環として隅田川対岸の深川を材木置き場として指定その後江戸の活気を代表する深川木場へ発展していきました、豪商紀伊国屋文左衛門も木場近く門前仲町に住んでいました。

しかしながら戦後東京湾の埋め立てにより深川木場は新木場に移されてしまいました。現在では都市開発により昔の風情はほとんど目にすることが出来なく残念な思いでした。

#### 《深川飯》

深川飯はもともと江戸時代に忙しい漁師が考えた舟の上で食べる昼飯です。味噌汁に、とれたてのアサリをぶちこみ飯にかけて庶民的な食事、隅田川河口では簡単にアサリが手に入りました。深川では深川飯を食べさせてくれる店も何軒かあります・・・ということで今日の昼飯は深川飯にしました、アサリの炊き込みご飯と味噌汁、おしんこ、小魚、1000円の値段の割りに？と言う感じでした。でもなんとなく江戸情緒を味わった気分でした。

#### 《深川芸者》

深川芸者は粋で威勢がよいと言われていたのですが、もともと男しか着なかった羽織を身に着け足袋も履かず歩いていたのでおおいに評判になったようですおきやんと言う言葉は心意気と言う意味で深川芸者から来たといわれています。因みにいなせは粋な男の事をさすようになったようです。

### 4. 芭蕉庵

芭蕉稲荷(芭蕉庵跡)



神田上水の現場監督を終えた後、俳諧の弟子杉山杉風に深川の隅田川に面した下屋敷を提供してもらい居を構えました、庭先に芭蕉の木が植わっていたので芭蕉庵と呼ばれ自らも芭蕉と称しました。芭蕉庵跡は江東区常盤1-3芭蕉稲荷の祠があるところとされています。



芭蕉が深川の芭蕉庵を出発し奥のほそ道へ旅立ったのは元禄2年(1689)春「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり」は奥の細道の書き出しとしておなじみの文章です。近くに芭蕉記念館があります

## 5. 泉水に映る、歴史と名石と緑 清澄庭園

芭蕉庵を過ぎ深川方面に進むと清澄庭園になります。



隅田川から水を引き潮の満ち干により庭趣に変化をもたせた潮入りの回遊式築山泉水庭で、大小の島々や磯渡りを造り池辺には全国各地から取り寄せた奇岩珍石が巧みに配置されています。是非一度足を運んでみてください。

都営大江戸線・半蔵門線「清澄白河」駅 徒歩3分

## 6. 霊巖寺



清澄通りを渡り深川資料館通りに進むと霊巖寺があります。明暦の大火後現在地に移りました、徳川家康、秀忠、家光の信望を集めた雄誉霊巖が浮洲を埋め立てて霊岸島を築き創立した寺です。境内には江戸六地藏、徳川吉宗の孫白川城主・松平定信の墓があります。

寛政改革を断行した松平定信は知恵伊豆といわれ主席老中から将軍補佐となり在職6年で引退、以後白川楽翁と号しました。晩年は深川松月舎で著作三昧に耽ったようです。



今回は江戸四宿の一つとして賑わった中山道の初駅・板橋宿を訪ねてみました。コースはJR板橋駅前の新撰組局長・近藤勇の墓所から旧中山道を歩き板橋宿へいたる道ですが旧宿場町は他の宿場町とちょっと違った江戸の雰囲気ただよっていました。またこの宿場町に隣して広大な広さの加賀藩100万石の下屋敷があったところでもあり、清流石神井川に沿って歩いてみました。

### 板橋宿

#### 1. 近藤勇の墓所

近藤勇の墓



JR埼京線東口駅前に近藤勇の大きな墓があります。この墓は旧隊士永倉新八が供養の為建立したものです、なぜか近藤の本名が逆に彫られています。近藤が刑死した翌年函館五稜郭の戦いで討ち死にした土方歳三の名も併記されています。永倉新八の墓も左手前に建てられています。

永倉新八の墓



.近藤勇は慶応4年（1867）下総（千葉）流山で新政府軍に捕らえられ板橋の本営に護送され刑場で首をはねられました。

尚墓は三鷹市大沢龍源寺、会津若松の天寧寺にもあります。

#### 2. “女街道”中山道

中山道は日本橋から京都三条大橋を結ぶ約135里（約534Km）の街道です、東海道が53次に対し69宿あり、北陸・信濃の41の大名が参勤交代で往来しました。東海道が温暖な太平洋岸を通る道に対して中山道は険しい碓氷峠や木曾路を通る山道でしたが大井川・天竜川・富士川などの川留めや船旅もなく女性に人気のある女街道でした。九代将軍徳川家重、十代家治の御台所(正室)を京都から迎えた時や幕末に皇女和宮が十四代家茂に降嫁する東下りの時にはいずれも中山道を通っています。

#### 3. 旧宿場町

宿場町に入る手前に東光寺があります。東光寺には豊臣秀吉の五大老の一人宇喜田秀家が眠っています。秀家は慶長5年(1600)関が原の戦いで西軍につき家康を苦しめた為徳川が天下を取ると死罪必定のところ前田家の計らいで八丈島に流され84年の生涯を閉じました。明治時代になり政府が宇喜多家を赦免したため前田家を頼って東光寺に供養塔を建てたわけです。

では宿場町を歩いて行きます。

日本橋を出発して最初の宿場町が板橋の宿で長さ15町49間(約1.7km)ありました江戸に近い方から平尾宿、仲宿、上宿となります、江戸から一番遠いのが上宿とは意外ですがそれは京都に近いからです。宿場には本陣や脇本陣、問屋場を始め、大小54軒の旅籠や料理屋などが軒を並べて賑わっていました。

板橋地名の由来:治承4年(1180)源頼朝が板橋に布陣し地名として初めて登場しました。

観明寺: 創建は南北朝期と伝えられています。朱塗りの山門は加賀藩下屋敷の通用門、門前の祠に入った庚申塔は寛文元年(1661)作で都内に残る最古の庚申塔、境内の出世稻荷は加賀藩下屋敷より移築したものです、また天然痘の厄除けをした疱仏の石像はちょっと分かりにくいのですがめずらしいので一見の価値あります。

板橋宿本陣跡: 中宿に本陣がありましたが、今は飯田不動産の脇に本陣跡の碑が建っています、少し離れたところに脇本陣の碑(飯田家の分家)があります。板橋宿本陣には飯田新左衛門が努めました。

中宿脇本陣跡: 代々宇兵衛を名乗る飯田家は、板橋中宿の名主と問屋場、脇本陣を勤めました

\* 途中板橋区観光センターに立ち寄ってみました、係りの人に大変親切に歴史や旧跡について教えていただきました。たまたま高校の先輩が脇本陣跡のそばでうなぎ屋(うなぎ仲宿)をやっていることを教えてもらいましたので昼食はうなぎにしましたが、やわらかな美味いうなぎを食べながらひととき高校の昔話に花が咲きました。

遍照寺: 江戸時代は天台宗の寺で境内に馬のつなぎ場があり明治時代には馬市が開かれていたようです

中宿を更に進んでいくと石神井川に架かる板橋に到着します、板橋の地名の由来となったかつての木の橋が現在は木目状のコンクリートの橋になっています。ここからが上宿になります

縁切榎: 昔から榎は、縁を切るという言葉から、災厄を防ぎ、旅人の安全を守る境の神と考えられ、村や町のはずれに植えられました。板橋宿では男女の縁切りが特に強調された為、縁を切りたい人や逆に悪縁を絶って良縁を求める人からの信仰を集めました。文久元年(1861)の和宮降家の時には迂回する道がつくられました。

宇喜多秀家の墓



板橋宿



観明寺の朱塗りの門



出世稻荷



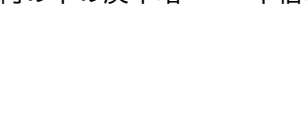
疱仏の石像



馬頭像



祠の中の庚申塔



中宿本陣跡



中宿脇本陣跡





板橋

石神井川

縁切榎



#### 4. 加賀藩下屋敷跡

##### 加賀藩下屋敷跡



加賀藩下屋敷は、延宝7年に前田綱紀が幕府から板橋宿平尾に6万坪の土地を与えられたことに始まり、その後加増により総面積21万8千坪の広大な屋敷地になりました、下屋敷は藩主やその家族の別荘や参勤交代のさい小休止する場所として使用されました。

##### 下屋敷案内図



途中加賀2丁目の町名を目にした時は古き地名に江戸時代にタイムスリップしたような気分になりました。加賀公園が下屋敷の中心地になります

今回は現役時代仕事の関係でたびたび通った浜松町から増上寺にかけてぶらついてみました、浜松町の駅前もいつのまにか新ビルが建って様相も変わっていました、又夕方ともなると狭い歩道にテーブルを並べサラリーマンでいっぱいになる名物いっぱい飲み屋の風景も消えてしまいちょっと淋しさを感じました。

## 浜松町 芝恩賜庭園

芝恩賜庭園



浜松町の由来は名主権兵衛が遠州浜松出身であったことから元禄9年(1696)に名付けたと言われています。駅から海岸方面に歩きますと右手に旧芝離宮恩賜庭園があります、この庭園は江戸最古の大名庭園であり典型的な「回遊式泉水庭園」で池を中心にした地割と石割は秀逸です。この地はかつて海面でしたが埋め立てられ延宝6年(1678)に老中大久保忠朝の邸地となり上屋敷を建てる際に作庭し「楽壽園」と命名しました、幕末には紀州徳川家の芝御屋敷となりましたが、大正1年(1923)の関東大震災で建物と樹木は殆ど焼失してしまいました、翌年には庭園を復旧昭和54年には国の名勝に指定されました。都会の喧騒を忘れ静かな庭園内をのんびり散策した後増上寺向かいました。

大門



増上寺には大門をくぐり参道を歩いていきますが、大門手前に寛政3年(1792)創業の蕎麦屋が今も健在に営業しています、江戸四大食(そば、寿司、鰻、てんぷら)は今日でも変わりありません、丁度昼時になりましたので江戸の風情をのこしている蕎麦屋(更科)で味わいました。蕎麦屋のすぐ近くに芝神明があります

更科そば



芝神明



狛犬



芝神明は江戸時代には境内で勸進相撲が行われたぐらいなのでそこそこ広かったようですが今ではこじんまりした境内です、特にこの神明が有名になったのは火消しのめ組と力士の喧嘩ですが今日でも歌舞伎で演じられます。石段を登った本殿前にはめ組によって寄付された狛犬が睨みを利かしています。大門近くに尾崎紅葉生誕の住居跡があります、金色夜叉の熱海の海岸の場面はこの近くの芝公園をモデルにしたと言われています。

## 芝増上寺 今鳴る鐘は芝か上野か浅草か

## 増上寺



増上寺の前身は空海の弟子・空叡上人が創建、のちに西譽上人が浄土宗に改め明徳4年（1393）から増上寺と称しました。家康が江戸入府のおり増上寺に立ち寄り源譽上人の手厚い接待に感激し徳川家の菩提寺としたとされています。増上寺は西の知恩院、東の増上寺と言われ浄土宗の大本山として繁栄し寺領は25万坪と広く華麗な堂宇がひしめいていました、2代將軍秀忠はじめ6將軍が眠っています。

## 梵鐘



参道正面の家康が寄進した壮麗な朱塗りの三解脱門（山門）をくぐり境内に入ると右手には火消しのめ組の記念碑、延宝元年(1673)鑄造の大梵鐘があります、梵鐘はいぼがなく、よく響くので千葉の木更津まで聞こえたと言われています、中央の大殿は昭49年の再建です。

## 徳川家墓所



大殿の右側には秘仏の黒本尊を祀る安国殿があります、その裏手に回ると徳川家墓所に着きます、葵の紋で飾った鑄抜門はさすが將軍家の墓地の門を感じさせます、墓地内には残念ながら入れませんが年一回4月8日をはさむ1週間は和宮の宝塔が一般に公開されるようです。

## 東照宮



増上寺の山門を出るとかつては境内にあった東照宮があります家康が60才の時に等身像を祀り後に家光が豪壮にして華麗を極めたと言う社殿を大改造しましたが、戦災で焼失してしまいました、現在の社殿は昭和44年の再建です。境内には巨大な銀杏の木が聳え立っています、家光が社殿を建てたときに手ずから植えたもので国の天然記念物に指定されています。ところで東京都の木はご存知かと思いますが銀杏です由来はこの銀杏の木にあると言われています。東照宮の裏

手には案外知られていませんが都内最大規模の丸山古墳(前方後円墳)があります山頂公園には伊能忠敬が全国測量に先立ちこの山で実測実習を行ったのに因み遺功の碑が建てられています。

## 大銀杏



## 丸山古墳案内図



## 伊能忠敬記念碑





今回は江戸四宿の一つであります内藤新宿界隈を歩いてみました既に品川宿・板橋宿・千住宿については取上げてきましたので今回の内藤新宿で江戸四宿全てに触れた事になります。

新宿と言えば今や都庁を始め高層ビル街や歌舞伎町に代表される歓楽街として知らない人がいないくらいですが当時の宿場町は現在の新宿通りに沿って位置し信濃高遠藩内藤家の広大な中屋敷があったことから内藤新宿と呼ばれてきました。

### 1) 甲州街道と内藤新宿

甲州街道は徳川家康が慶長・元和年間に整備を行った五街道の一つで江戸から甲府を経て下諏訪で中山道に合流します。甲州街道の最初の宿場は高井戸(杉並区)でしたが日本橋を出発して四里八丁(16.6km)もあったため人馬ともに不便でした、そこで浅草の名主喜兵衛が同志と共に太宗寺の近くに宿場を開設するよう幕府に5600両の運上金を納め宿場町開設を申し出ました、幕府は用地として信州高遠藩内藤家の屋敷の一部を返上させてこれに当て、内藤新宿は元禄11年(1698)に開設となりました。宿場は東西九町十間余り(約999m)、現在の四谷交差点(四谷大木戸)から伊勢丹近くの追分(甲州街道と青梅街道の分岐点)まで続いていました

### 2) 内藤氏と新宿御苑

新宿御苑は信濃高遠藩内藤家の中屋敷あった所で広大な土地は愛馬のおかげで拝領したと言う逸話があります。家康は江戸入府前に内藤清成と青山忠成らに命じ北条残党の動きを監視させました、清成は伊賀組百人鉄砲隊をこの辺りに布陣、大軍が集結できる広場を確保、この功績と甲州街道の押さえとして家康は広大な土地を与えました「家康は江戸に入ると家臣の内藤清成にお前がこの老馬で回れるだけの土地を与える」と約束、清成はよぼよぼの馬を駆り原野一帯を走って1周し元の地点に戻ってくると老馬はそのまま死んでしまいました。家康は約束どおり領地を与えました。東は四谷、西は代々木、南は千駄ヶ谷、北は大久保に至る広大な土地であります。清成は老馬の為に邸内に駿馬塚を築き弔いました、その碑は現在も多武峯神社にあります

## 大木戸より追分

### 1. 大木戸跡



四谷区民センター脇の小公園に「四谷大木戸跡」と「水道碑記」があります、ここが内藤新宿の入り口、大木戸は甲州街道に設けられた小型の見附(検問所)、水道碑は玉川上水を開発した玉川兄弟の功績を称え明治28年に立てられました。





玉川 上水は急速に膨張した江戸の水源を確保する為4代将軍家綱の時代に開削、羽村から四谷大木戸までの約43kmの大土木工事で世界的に見ても当時の最先端の技術水準と言われているようです、

現在ここには水道局があります。

## 2. 新宿御苑



新宿の中の緑のオアシスといえば新宿御苑、ここは信濃高遠藩内藤家の中屋敷があったところです、御苑は内藤家の土地と隣接地を合わせて58万㎡の広大な土地です最初は農作物試作試験場として明治5年にスタート明治39年に新宿御苑と改名され今年には100年目にあたり色々なイベントをしています、私も何十年ぶりに新宿御苑を訪れたのですが昔と比べずいぶん整備されているなあという印象でした、広々とした芝生の公園で幼稚園児

がにぎやかにはしゃいでいました。

園内は広く内藤家の庭園「玉川園」やフランス式庭園、イギリス式庭園、日本庭園、温室などがあり自然の息吹あふれる憩いのひと時が楽しめます(入場料200円)。

新宿御苑大木戸門



旧洋館



温室

## 3. 多武峯神社



内藤氏の先祖と言われる藤原鎌足をまつる神社、現在は御苑の隣接地に移転、神社右手に駿馬塚があります。

多武峯神社

## 4. 太宗寺

太宗寺は太宗という名の僧侶が建てた草庵(太宗庵)が前身と伝えられています、寛文8年(1668)内藤家より寺領の寄進をうけ起立しました、内藤家の墓所となっています

### 太宗寺の文化財



銅像地藏菩薩坐像





江戸六地蔵の3番目として正徳2年(1712)に造立されました

江戸六地蔵は品川寺・東禅寺・真性寺・霊巖寺・永代寺（現存していません）・太宗寺の地蔵をさします



閻魔像

木造で総高5.5m 文化11年(1814)に安置、体は昭和8年に造りなおしたものです、江戸時代より「内藤新宿の閻魔さん」として庶民の信仰を集めました。

奪衣婆像

木造で総高2.4m 明治3年の製作奪衣婆は閻魔大王に仕え三途の川を渡る亡者から衣服を剥ぎ取り罪の軽重を計るとされ右手には亡者から剥ぎ取った衣が握られています、又衣をはぐところから内藤新宿の妓楼の商売神として信仰されてきました



太宗寺は内藤家の菩提寺

## 5. 正受院・成覚寺



太宗寺の裏手に回ると正受院と成覚寺が隣り合わせに並んでいます正受院は幕末まで会津若松藩主の菩提寺でした、門をくぐるとすぐ右手に奪衣婆像がありますこちらの坐像は頭から肩にかけて頭巾のように綿をかぶっているのが「綿のおばば」とも言われています、幕末には咳止めに霊験あらたかと評判になり江戸市中から参詣者が集まりました。



正覚寺は文禄3年(1594)建立、内藤新宿の「投げ込み寺」としてしられ、昔遊女たちが死ぬとこの寺に投げ込んだといわれています、「子供(遊女のこと)合理碑」がありますが供養塔です。江戸中期の戯作者・恋川春町の墓もあります

## 6. 追分団子

旧甲州街道と旧青梅街道の分岐点に老舗の追分団子本舗があります

追分団子の栞より



太田道灌が江戸城を構築中、鷹狩の帰途高井戸の付近で夕暮れとなりました、折りしも仲秋の名月は道灌の詩情をさそい家臣と共に歌の宴を張った折、土着名族某、団子を献上したところ、道灌は名月に配する団子の風雅を喜びその滋味を賞賛し、以来、折に触れてこれを所望しました、のちに、名族某は道灌の徳をしのび高井戸の地において道灌団子と称してその製法を家伝としましたが、高井戸宿が甲州街道の始駅となったため上水

の傍らに柳茶屋と号して道灌団子を商い大いに繁盛しました。元禄11年(1698)内藤新宿が伝馬の宿駅になったため新宿追分に移転し行き交う人々に親しまれ誰言うことなく追分だんごと呼ばれるようになりました、追分団子本舗は以上の口碑にもとづいております。

## 第20話 浅草寺

しばらく休憩していましたが、ようやく20話にたどり着きました、今回は最も江戸らしく誰でも良く知っている浅草寺にやって参りました、浅草寺は何度も来たところですが雷門から仲見世をぶらついて本堂で御参りをして近くで食事をして帰るのがお決まりでしたが、今回は周辺の本堂裏の奥山や浅草神社に二天門、隅田川駒形橋ふもとの駒形堂、昼食は江戸の老舗駒形どぜうを楽しみました。あらためて浅草寺の歴史の古さを知ることになりました。

### 「 浅草寺 」

雷門前に立つといきなりタイムスリップして江戸時代に吸い込まれていく感じがしてきます、月曜の朝10時ですがこの時間に来たのは初めてですが既に大勢の参拝者、観光客で仲見世はごった返していました、外国人もかなりきていました。

### 浅草寺縁起

浅草寺の起源は推古天皇36年(628)3月18日のこと、檜前浜成、竹成が隅田川で漁をしていると、1寸8分(5.5cm)の観音像が網にかかりました、これを郷司土師中知が改めると聖観音であることがわかり中知が自宅を改めて寺としたのが始まりと言われています、その後大化元年(645)に勝海上人がこの地をを訪れ観音堂を建立し本尊の聖観音を秘仏と定めました、奈良時代には大寺としての伽藍を営んでいたことが実証されています、平安朝には慈覚大師が来山し秘仏を模して「お前立の本尊」を刻みました、鎌倉時代には將軍の帰依を厚くし次第に歴史上有名な武将・文人の信仰を集めましたが高んと言っても今日の隆盛を極めたきっかけは徳川家の祈願所となり江戸文化の中心地になったことによるものです。本堂は3代將軍家光により再建されました。

昭和20年の戦災で惜しくも焼失し現在の建物は昭和33年に再建されたものです。

### 雷門



左右に風神、雷神を祀ってある所から風雷門と呼ばれていましたがいつの頃から雷門と呼ばれるようになりました、広重の錦絵に描かれた雷門は寛政7年(1795)に建造されたものようですが慶応元年(1865)に焼失しその後長い間再建されなかったのですが昭和35年、95年ぶりに松下幸之助の寄進により再建されました。

### 仲見世



雷門入り口から宝蔵門に至る商店街ですがこの商店街は江戸時代参道の清掃を課せられた付近の住民がその代償として床店の出店を許されたのが始まりのようで浅草餅の金亀山(享保年代)をはじめ江戸創業の店が多く江戸の文化が香るところです。

## 宝蔵門

3代将軍家光寄進の仁王を納めていたところから、以前は仁王門とよばれていました戦災で焼失した経蔵の代りに国宝の「紙本墨書法華経」などを収蔵していますので宝蔵門と呼ばれています、丁度改修中のため残念ながら見ることは出来ませんでした

## 伝法院



浅草寺の本坊、庭園は小堀遠州の作といわれ回遊式庭園は江戸名園の一つに挙げられています。茶室の「天祐庵」や古鐘など多くの史跡が現存しています、こちらの伝法院の庭園は是非見学したかったのですが、こちらも庭園が修復中で見学はできませんでした、まだまだ修復に日数がかかりますので当分見学は出来ないようです。拝観は浅草寺社務所の許可が必要です

## 観音堂(本堂)



3代将軍家光が慶安2年(1649)に再建した観音堂は昭和20年の東京空襲で全焼してしまい現在の大本堂は昭和33年に再建されたものです。本堂前の水舎は珍しいもので、蓮華の上に高村光雲作の竜王が立っています。

## 二天門



浅草寺に東照宮が建てられた元和4年(1618)に東照宮の隨身門として建造されました。「増長天」「持国天」の二天を祀るのでこの名があります浅草寺に東照宮ちょっとぴんときませんが観音堂の西南に東照宮があったのですが2度の火災に遭い江戸城内の紅葉山に遷されました。これまで浅草寺に行っても同じ境内でありながら二天門まで行ったことはありませんでした、二天門は戦災にも無事にまぬがれ、雷門、宝蔵門ほどの華麗さはありませんが江戸時代の建造物として歴史的な重厚さはひとしおであり国の重要文化財に指定されています

## 弁天堂 時の鐘



堂宇の弁才天は慈覚大師作と伝えられ白髪のため老女弁才天と呼ばれ、関東の「三弁天」(神奈川江ノ島、千葉県布施)として霊名が高いので浅草寺参拝の際には寄っ



てみてはいかがですか。

弁天山にある鐘は時の鐘として親しまれてきました、鐘の銘文によれば元禄5年(1692)改鑄とあり5代将軍綱吉の寵臣牧野成貞が音色をよくするために黄金200枚を鑄込ませたといわれています、浅草寺の除夜の鐘はこの鐘で今でも毎朝6時に時を告げています。「花の雲鐘は上野か浅草か」芭蕉

## 浅草神社



境内にある浅草神社は三社祭で知られていますが三社とは観音様を祀った土師中知と檜前浜成、竹成兄弟の三人を神として祀っています、草創は平安時代後期といわれる古社です。現在の社殿は将軍家光が建てたもので国の重文に指定されています。初夏を告げる三社祭りは三体の本社神輿のほかに100体以上の町内神輿が繰り出し浅草の街は神輿一色に塗りつぶされます。(5月17,18日ごろ数日間行われます)江戸時代には本社神輿が船に乗せられて隅田川を上った「船祭」のようでした。

ところで浅草の由来ですが、この地がもともと荒れ果てた土地に雑草が生い茂っていたためにつけられたとも言われています。

## 浅草の老舗といえば

本尊馬頭観音は藤原末期慈覚大師の作と伝えられています、お堂の前は船着場で多くの参拝者は駒形堂に上陸してから浅草寺に向かったようです、このあたりは浅草寺の本尊が出現した霊地なので、駒形堂周辺は禁魚となっていました。



駒形どぜうの創業は、享和元年(1801)1月です。初代は武蔵国の出で18才の時江戸に生まれました、数年の奉公後どぜう汁、どぜうなべを商うめし屋を開き越後屋助七を名乗りました。以来2百余年味とおもてなしに江戸情緒を残し……………

駒形どぜう栞より

昼飯のあともう一廻り

## 駒形堂



本尊馬頭観音は藤原末期慈覚大師の作と伝えられています、お堂の前は船着場で多くの参拝者は駒形堂に上陸してから浅草寺に向かったようです、このあたりは浅草寺の本尊が出現した霊地なので、駒形堂周辺は禁魚となっていました。

## 奥山

今はそれほどの賑わいともいえない本堂裏手の奥山は江戸期から戦前まで大変な賑わいを見せていました、奥山の名物と

いえば時々テレビの時代劇に出てくる見世物です辻講釈、からくり、芝居、曲芸で賑っていましたが中でも松井源水の独楽回し、長井兵助の居合抜きは奥山の人気でした。このような下地からエノケン、ターキー、デンスケ、渥美清、萩本欽一、坂上二郎、ビートたけし等が生まれてきたのだと思います。

## 浅草観音温泉

今日は浅草寺をゆっくりぶらついて見ました、今までと違った浅草寺を発見できたような新鮮な気分になりました、最後に本堂裏奥山の観音温泉によってみました、建物も古びてけして綺麗とはいえませんが東京では古い本当の温泉のようです、温度はやや低めです、効能書きもちゃんとあり厚生省認定です。まさか浅草で温泉に入れるとはゆめゆめ思いませんでした。

## 2 1 話 雑司が谷・鬼子母神

ここ数年、特に昨年から今年にかけて子供に対するいじめ、虐待が毎日、新聞・TVで報道され社会問題として大きくとりあげられています。今回は小児の神として信仰されています雑司が谷の鬼子母神参りをしてきました。50数年ぶりに都電・荒川線にのり(東池袋4丁目～鬼子母神前)チン・チンの音を聞き小学校の頃にタイムスリップしたようでした。

### 1) 雑司が谷の由来

江戸名所記によると地名の由来は南北朝時代の頃京都の朝廷で雑式の職にあったものがこの地に土着したことに由来すると記されています又雑司が谷の地名が定められたのは八代将軍吉宗が放鷹のためにこの地に来たとき「雑司が谷村と書くべし」といわれてからと伝えられています。

### 2) 鬼子母神

鬼子母神は安産・子育ての神様として広く信仰の対象になっていますが、来歴には深いいわれがあります。鬼子母神はインドの夜叉神の娘で訶梨帝母とよばれ、嫁して多くの子供を生みました。しかしその性質は凶暴で近隣の幼児をとって食べてしまうので、人々から恐れ憎まれていました、お釈迦様は、その過ちから帝母を救うことを考え、帝母が一番かわいがっていた末の子を隠してしまいました。その時の帝母の嘆き悲しむ様は限りなく、お釈迦様は・・・「千人のうちの一子を失うのもかくの如し。いわんや人の一子を喰らうとき、その父母の嘆きやいかんと戒めました。そこで帝母は初めて今までの過ちを悟り、お釈迦様に帰依し、その後安産・子育ての神となることを誓い、人々に尊崇されるようになったとされています。

### 3) 鬼子母神堂

鬼子母神のご尊像は室町時代にこの辺りで掘り出されて近くのお寺に納められたものですが、安土桃山時代になり村の人々が堂宇をたて今日にいたっています。

現在のお堂は本殿が寛文4年(1664年)加賀藩主前田利常公の息女で、安芸藩主に嫁いだ自証院の寄進により建立されました。

雑司が谷の鬼子母神像は鬼の形でなく菩薩の形をした美しい姿になっていますので、鬼の字には角がありません。

### 4) 都電 鬼子母神前駅より境内へ

参道入口



ケヤキ並木

駅踏切を渡るとすぐ前方にけやき並木が目に入りそこからが参道になります。このけやきは樹齢300年から400年になり都天然記念物に指定されています。けやきに圧倒されながら歩いていきますと境内です、左手にはけやきより更に古く樹齢600年の大銀杏が植わっています。こちらも都天然記念物。

大銀杏



まっすぐ進めば本堂になります

境内1



境内2



本堂内



本堂は改修はされていますが江戸時代の建材を使っており江戸の建造物の重厚さを残しています。



本堂の手前に古びた駄菓子屋さんがあります、この店は元禄時代から続いている有名な駄菓子屋さんで数えて13代目になります。この駄菓子屋さんの飴は江戸時代から人気で「川口の飴は照り降りなしに売れ」と川柳にも読まれているほどです。記念に写真をお願いすると気軽にポーズをとってくれました。ついでに懐かしの駄菓子も少し買いました。江戸時代から今日でも人気の郷土玩具があります。「すすきみみずく」です昔、親孝行の娘が母親の病氣快癒を祈っていたところ、夢で「すすきでみみずくを作ってそれを売って薬代にしてください」とお告げがありそのとおりですすきでみみずくを作り境内で売ると飛ぶように売れ薬を買って母親の病氣を治すことが出来たという話が伝わっています。鬼子母神といえはすすきみみずくでしょう

## 5) 御会式

鬼子母神の万灯練供養のお会式は江戸三大お会式の一つで数百年続く行事です。

毎年10月16日～18日に行はれます。10月18日は最終日JR池袋東口から明治通りを通過して鬼子母神までの万灯を掲げてのパレード、まさに光のパレードです。

## 6) 都電荒川線

### 都電雑司が谷駅



最近TVで荒川線をよく取上げていますのでご存知かと思いますが都電荒川線は早稲田～三ノ輪橋(12.21キロ)を約50分で結ぶ路面電車です。明治44年に創業でこの区間だけが荒川線として残りました。

都電



普通運賃大人160円 一日乗車券大人400円





都営地下鉄・バス・都電一日乗車券大人700

都電に乗って一日のんびり下町めぐりもいいと思います。

## 7) 鬼平と雑司が谷

池波正太郎の鬼平にはしばしば雑司が谷の鬼子母神が描かれています。

鬼平犯科帳7 隠居金七百両から

長谷川平蔵が、鬼子母神・参道の入り口にさしかかったとき、すでに、暮れ六ツは過ぎていた。そのときだ。参道の彼方から猛烈な勢いでかけあらわれた男を見て、平蔵が、「辰蔵ではないか」「あっ……父上。よ、よ、よいところへ……」「ばかもの。なにおしておる?」「一大事なので……」「何だと」

昨年11月3日第一回江戸検定の試験がありました、約1万人老若男女が受験しましたが私も3級を受験し12月に合格の通知、記念のバッジ、おまけに江戸東京博物館の入場券が付されてきました。今年は江戸城築城550年になり丁度江戸城特別展も開催されていたので先日行ってきました。特別展入場前に周辺の両国界限をぶらついてきました。

### 1. 両国橋



両国橋は千住大橋について隅田川に万治2年(1659)2番目に架けられた橋です。もともと江戸時代初期は江戸の町を護るために、幕府は軍事的目的のために橋を架させなかったのですが、明暦3年(1657)の明暦の大火により多くの人々が隅田川を越えられず命を落としたことがきっかけとなり橋を架けることになりました。

両国橋の由来は武蔵野国と下総国の両国をむすぶという意味で命名されました。

享保8年(1723)から始められた川開きは江戸名物の一つであり花火大会は今日でも夏の風物詩になっているのはご存知のとおりです。

回向院、吉良邸跡、両国橋たもと大高源吾の句碑は[江戸ぶらり足袋8話]で紹介しております。赤穂の義士達は吉良邸に討ち入った後泉岳寺に向かうのですが15日は大名の定例登城日になっていたため摩擦を避け両国橋を通らず川岸を左折しました。それにより両国橋の左袂に、大高源吾の句碑[日の恩やたちまち砕く厚氷]が立つちました。

#### 両国橋から



### 2. 両国といえば 大相撲



五穀豊穰を祈る神儀・相撲は江戸文化の華として天保年間両国の回向院境内で興業が始まり広く江戸期の人々の楽しみとなりました。今日も回向院には力士たちを祀った力塚があります。現在の両国国技館は回向院旧両国国技館、蔵前国技館、現国技館と変遷しております。両国駅前には相撲の町らしく横綱通り、ちゃんこの店、国技館どおりには歴代横綱の手形やモニュメントが創られています。昨年12月にちゃん



づけて弾丸巴滷

こ巴滷で学生時代の仲間と忘年会をしました、ちゃんこはここがお薦めです。

ちゃんこ巴滷 9代目友綱、最高位・小結。高島・友綱部屋から横綱吉葉山、大関・三根山などの力士を輩出しています。 人は名昭和51年に開店の店です。

横綱通り



ちゃんこ巴滷



力士像手形



### 3. 旧安田庭園



国技館を少し先に行くと旧安田庭園が静かなたたずまいを見せています。元禄4年(1691)下野足利2万石の領主本庄因幡守宗資が下屋敷として幕府 から拝領、造園したものです。隅田川の水を引いて作られた汐入式池泉中心の回遊式庭園は名園の誉れ高く、明治維新後岡山藩主池田氏の邸宅となりのち安田財閥を築いた安田善次郎に買い取られ後東京市、さらに墨田区に寄付されました。ここの 庭園は入場料無料です。



### 4. 江戸東京博物館 特別展

太田道灌の築城550年を記念して江戸城特別展が開催されました。戦国時代の長禄元年(1457)、相模国主扇谷上杉氏の

重臣・太田道灌が江戸に城を築きました。江戸時代に入り城は戦いの場から政治の舞台、権力の象徴となり、なかでも江戸城は、徳川将軍家の城として、また世界的な大都市江戸のシンボルとして、比類なき地位を築きました。特別展では屏風絵、絵巻物、金箔瓦等の展示品、焼失した[幻の天守]や大奥の素顔が紹介されています。

## 第23話 池上梅園と本門寺

今回は江戸の郊外、池上を訪ねてみました2月の中旬でしたので梅園は満開で見ごろ本門寺も久しぶりの訪問でした。

### 池上梅園

#### 梅園の由来

池上梅園は池上本門寺の西に位置し、丘陵斜面を利用した閑静な庭園です。戦前まで北半分は日本画家伊東深水の自宅兼アトリエでしたが戦災で焼失その後料亭経営者小倉氏が南半分を別荘として使用その後東京都に譲渡されました。

梅は白梅150本、紅梅220本その他50本のボタン、800株のツツジなど50種500本の樹木があり四季を通じて楽しめる梅園です。

当日は2月中旬にもかかわらず温かな日よりで、また数日前にTV番組ちい散歩で紹介されましたので大勢の人が梅園見物に来ていました。

梅園内には政治家藤山愛一郎が寄贈した茶室・聴雨庵や伊東深水のアトリエを設計した建築家川尻氏の離れ家を再建した茶室清月庵もあります。

開園時間 午前9時から午後4時30分まで

入園料 100円 大田区の施設につき低料金 茶室も利用できます。

アクセス 東急池上線「池上」下車 徒歩20分



#### 池上本門寺

日蓮宗の大本山である本門寺は、山号を〔長栄山〕院号を〔大国院〕といい古くから〔池上本門寺〕の名で広く知られています。

池上の地名が広く知られるようになったのは法華宗に帰依した棟梁の池上宗仲が建立した寺院を日蓮が本門寺と命名したのが始まりといわれています。

弘安4年(1282)、日蓮は病氣療養のため身延山を下り、常陸の湯治場に向かう途中本門寺に立ち寄りしましたがここで症状が重くなり10月13日に入滅しました。

毎年日蓮の命日に行われる「お会式」は関東第一の仏教行事として大いに賑います。

本門寺は直弟子により伽藍が整備され中世には関東の有力武士から庇護され発展しさらに寛永4年(1751)には朝廷から紫衣の勅書をうけ、徳川將軍家や諸大名の尊崇を集めて関東一の巨刹と称されました。

本門寺は戦災で五重塔、経蔵、宝塔、総門、を除く大半の堂宇が焼失してしまいました。広大な墓域には徳川ゆかりの墓

所や狩野探幽、市川左団次、幸田露伴、力道山ら著名人が眠っています。

## [ 総門 ]



どっしりと構えたケヤキ造りの総門は元禄年間（1688～1704）に建立されました。この額は寛永の三筆の一人本阿弥光悦が書いたレプリカですが実物は宝蔵に保管されています。

## [ 石段 ]

総門をくぐると96段の石段がありますがこれは加藤清正が寄進したもので〔法華経〕偈文96文字に由来しています。



## [ 五重塔 ]

五重塔は慶長12年(1607)乳母の正心院(岡部の局)の願いにより2代将軍秀忠が建立しました。関東では最古のもので国の重要文化財に指定されています。鬼瓦に〔紀州那賀郡根来寺住棟直作 慶長十二年六月六日〕と刻した銘があります。秀忠は歴代将軍のなかでも特に本門寺を崇敬していたようです。

## [ 大堂 ]

もとの大堂は戦災で焼失しましたが、再建された現在の大堂には日本画家の巨匠川端龍子が描いた『龍』が天井画として飾られています、龍の絵は未完に終わりましたが後に奥村土牛により龍に眼が入れられた珍しい絵です。

\* 池上本門寺を散策してみませんか こんなパンフレットが作られていました、作ったのは若手のお坊さんです。より身近に本門寺を知ってもらおうとクイズ形式のパンフですがクイズを回答するには10箇所のポイントを回らなければなりません、例えば加藤清正が寄進した石段は何段ですかとか・・・自然と本門寺が理解できるようになっています。

10問正解すると一般には非公開の奥庭(松濤園)が無料で見学できます。

大堂



日蓮上人宝塔



力道山の墓



## 松濤園と茶室

松濤園

海舟西郷会見の碑



松濤園は本門寺の旧本坊の奥庭として桂離宮の建築と造園で名高い小堀遠州により作られました。4千坪の庭に遠州茶道の極意を具現し、溪流と池を回遊する名園です。園内には西郷隆盛と勝海舟会見の碑があります：慶応4年(1868)4月に西郷隆盛と勝海舟はこの庭のあずまやで江戸城明け渡しの会見をしたと伝えられています。本門寺は当時新政府軍の本陣がおかれた所でした。

茶室は根庵・鈍庵・松月亭・浄庵があります。珍しいものとして狩野派の画家明治美術界の指導者の1人の橋本雅邦が使った画筆を納めた筆塚もあります。

## 第24話 小石川後樂園と周辺

新緑まぶしい季節になりました今回は都内の名園の1つ小石川後樂園をのんびり散策し、家康の生母於大の方や千姫らが眠る伝通院へ、そして古くから厄除け閻魔として信仰が厚いこんにやく閻魔に足を運ばせました。五月晴れに恵まれましたので少し足を延ばして権現造りの社殿として江戸時代を代表する建築の根津神社も訪れてみました。

### [1] 小石川後樂園と黄門さま



小石川後樂園は江戸の初期寛永6年に水戸徳川家の祖頼房が上屋敷として造り2代目の光圀が完成した庭園で、現在は国の特別史跡、特別名勝に指定されています。庭園の様式は神田上水を引き入れて池泉回遊式庭園となっています。光圀は明より帰化した朱舜水の意見を用いて円月橋、西湖堤など中国風物を取り入れ後樂園の名も朱舜水の命名によるなど中国趣味豊かな庭園になっています。

後樂園の名は中国の[岳陽樓記]の[憂いに先立って憂い、天下の楽しみに

後れて楽しむ]から名付けられたようです。まさに為政者たるもの大いに心す

べき言葉ですね。

小石川庭園内: 池に映る青葉がなんともいえません



光圀は後樂園を一見したいという者があれば身分の高低にかかわらず入園を許したと伝えられています。

.内庭: 水戸藩書院があったところで、昔は唐門がありました。

.得仁堂: 光圀が感銘を受けた伯夷叔斉の木造を安置したお堂

築地塀: 大名屋敷の雰囲気を感じられます。.

得仁堂



築地塀



学問好きの光圀は助さん、格さんを日本全国に使いを出し郷土史などを集め小石川の藩邸であの大日本史を完成させました。今でもTVドラマで人気の【水戸黄門】は助さん格さんを引き連れて天下の悪を懲らしめる副将軍の話はどうやら江戸末期のつくり話のようです。

. \*後楽園内に「藤田東湖先生護母致命之處」の碑が建っています。

東湖は水戸学の大成者で明治維新を成就するうえで思想的、精神的に大きな影響を与えた人物として知られていますが、安政2年のマグニチュード7とも伝えられる大地震が江戸に起こり東湖は小石川の水戸藩邸内の自宅でこの大地震に見舞われ一時は危機を脱しましたが母親が火鉢の火を気にして邸内に戻るの見て東湖も母親の後を追いつつ邸内に戻ったところ頭上の梁が落下し母をかばって梁の下敷きになり母を助けたが力尽きて圧死してしまいました。



藤田東湖護母致命の碑

春日通りに建つ春日局像



\*地下鉄丸の内線後樂園駅をでたところに礪川公園があり春日通りに面した所に春日局の銅像が建っています。春日局が小石川の地を拝領したことに由来しているようです。

(春日通り、旧春日町なども春日局にちなんだ名前です)

## 「2」 伝通院

伝通院は徳川家康の生母於大の方の法名でそれがお寺の通称になっているようです。徳川家を支えた徳川ゆかりの墓が多数ありますが、中でも於大の方や、千姫の墓は巨大で徳川の権力を象徴しています。千姫は豊臣秀頼と政略結婚したものの大坂夏の陣で落城の大阪城から救出されましたが悲劇のヒロインとしていられています。

墓所にはその他詩人の佐藤春夫や作家の柴田錬三郎、尊王攘夷派として知られのに幕府の刺客により暗殺された清河八郎が眠っています。

於大の方の墓

千姫の墓

清河八郎の墓



伝通院の鐘

本堂

佐藤春夫の墓



## 「3」 こんにやく閻魔



江戸中期に眼病に悩む老婆がここの閻魔大王にお百度参りをし治癒の祈願をしたところ満願の夜閻魔さまが夢枕に現れ「汝の心を憐れみ、われの日



月に等しい両眼のうちより一つを授ける」と告げました。目が覚めると眼の痛みは消えてなくなり以前より明るく見えたので閻魔さまにお礼に行くと閻魔さまの右眼が黄色く濁っていました、老婆は閻魔さまに感謝し好物のこんにやくを絶ってお礼に供えたというのがこんにやく閻魔の由来のようです、こんにやくが「困厄」に通じるころから閻魔さまが身代わりに困厄を引き受けてくださるという信仰が江戸に広まりこんにやくを供える人が今でも多いようです。閻魔さんにたくさんのこんにやくが供えてあり

ました。

## 「4」 根津神社

楼門



根津神社は今からさかのぼること1900年余の日本武尊が千駄木の地に創祀したと伝えられている古社で文明年間には太田道灌が社殿を奉建しているようです。江戸時代になって5代将軍綱吉は現在の社殿を奉建し千駄木より遷座しました。

6代将軍家宣は世に天下普請といわれる大造営を行い完成した権現造りの社殿、唐門、透門、楼門、全てが現存し国の重要文化財に指定されています。

社殿



家宣は当社の祭礼を定め俗に天下祭と呼ばれた壮大な祭礼を行いました。現存する大神輿三基はこの時家宣が奉納したものです。

\*江戸天下祭は江戸城内に入ることが許され将軍がご覧になった幕府公認のお祭りで現在も盛大に行われている祭りは神田祭や山王祭ですが根津神社も一度だけ城内に入ったことがあるそうです。

境内のつつじ苑には約50種3000株のつつじが咲き競い合い見事な景観で毎年大勢の人で賑わいます。

見頃は4月中旬から下旬で今年のつつじ祭りは4/9～5/5まで開催されます。

今日はまさに五月晴れ色とりどりのつつじが鮮やかに咲きたくさんの見物人を喜ばせていました。

### 家宣奉納の神輿





## 第25話 人形町界限（1）

今回は歴史のある佇まいがあちこちに残っていて江戸情緒を肌で感じる人形町界限から芝居でお馴染の明治座さらに足を延ばして古くから水難安産に御利益があると評判の水天宮をぶらついてみました。人形町は何度も訪ねたところですが昼時には老舗玉ひではいつも行列ができていて目当てのたまご井にありつけなかったのですが今回は1時間ほど粘ってようやくたまご井を頂く事が出来ました。人形町は江戸時代の代表と言われる浅草とまた違ってゆっくり時間をかけて歩いてみると意外な発見があるところです。

### 1) 人形町の由来

人形市



江戸時代の代表的な娯楽と言えば芝居見物のようでした、しかし芝居見物となると庶民にはそうやすやすと手が届きませんでした、そこで安く短時間で楽しめる庶民の娯楽として人形芝居が盛況しました。人形町界限には人形を作る人や修理する人や商う人、人形を操る人形師が大勢暮らすようになりました。季節ごとには市がたち雛人形、菖蒲人形等一年中賑わいの絶えない町に発展していきます

「元禄江戸図」には「人形丁」と書かれていてこの当時より俗称として親しまれていたようです。正式に人形町という現在の名前になったのは昭和8年のことですが400年近く江戸の香りを残す町として独特の文化の匂いがするところです。

### 2) 江戸の歌舞伎

江戸初期の寛永年間に京都より歌舞音曲の名人猿若勘三郎が猿若座(のちの中村座)を人形町に開いたのが江戸歌舞伎の始まりです。現在の中村勘三郎は18代目になります。続いて堺の村山又三郎が村山座(のちの市村座)を興して人形町に歌舞伎の芝居小屋を建てました。それに伴い芝居小屋周辺には人形浄瑠璃や見世物小屋、曲芸、水芸、手品などの安料金で楽しめる小屋が次々と建ち並んで行きました。当時の大芝居見物は芝居茶屋とセットの一日がかりで大変豪勢な遊びだったようです。朝茶屋に上がって棧敷で芝居を見て幕見には酒、肴、お茶にお弁当が棧敷に運ばれ芝居が終わると茶屋でくつろぐという贅沢な遊びだったんですね。

### 3) 人形町と吉原

江戸時代になって全国から武士が集まるようになると娼家が現れ始めます。幕府は風紀上や防衛上の問題もあって葎(よし)の生い立った沼地を埋めて塀で仕切り廓を作り点在していた娼家を1か所に移しました、これが幕府公認の遊郭吉原になりました。はじめは葎原(よしはら)と呼ばれていましたが後に縁起を担いでめでたい吉の字をあて「吉原」と改められました。芝居見物と並んで遊郭の遊びは江戸の武士だけでなく羽振りの良い商人や職人、町人にもてはやされ繁盛を極めました。

人形町の吉原と芝居町は日本橋の魚河岸とともに1日千両のお金が落ちるほどの盛況を極めた吉原でしたが明暦の大火(1657年)で江戸中が火の海となり吉原の廓もほとんどが焼けてしまいました。幕府も江戸城近くに遊郭があることは好ましく思っていないので大火を機会にやや離れた浅草に遊郭を移しました。人形町にあった吉原を元吉原、浅草に移した吉原を新吉原と呼ぶようになりました。

現在人形町には“大門通り”の名称があり吉原に通じる道の名残になっています

### 4) 明治座



幕末のころ両国橋の西側の広小路に「三人兄弟の芝居」という一座があったのが明治座の先祖と言われていますが明治6年久松町に「喜昇座」として開場したのが明治座の始まりとされています。喜昇座はその後「久松座」「千歳座」と変遷して明治26年に初代市川左団次を座主に明治座と改称しました。浜町に移ったのは関東大震災後の昭和3年になります。平成5年には再開発により建て替えられ18階建の浜町センタービル内に入居しました、エスカレーター、エレベーターや車いすのスペースの設置やバリアフリーなどを備え近代的な

劇場として生まれ変わっています。

人形町甘酒横町をぶらつき老舗をながめながら明治座に至る道は江戸の情緒に触れるにはうってつけのコースですので是非一度ぶらついてみてください。

## 5) 水天宮



水天宮は江戸時代に久留米藩主有馬侯の江戸邸芝赤羽の屋敷内にあったものです。毎月5日だけ庶民の参詣を許したため参詣者が多く集まりました。

本宮の起こりは壇ノ浦の戦いで源氏に敗れ海に身を投げた安徳天皇以下3霊をそばに仕えていた 按察使(あぜち)の局が尼となって秘かに供養した祠とされています、この祠が筑後川の氾濫に苦しめられていた付近の農民や海運を業とする者たちの間で水難厄除け、五穀豊穡の神として信仰を集めるようになりました、水天宮は久留米の

本宮のころから水難厄除けと共に安産の守り神でもあったようです特に芝赤羽の有馬邸に祀られて以来御利益にあずかろうと人々に賑わいました。賑わいの由来としてこんな話があります。・・・有馬家の7代目が5代將軍綱吉から拝受した犬を非常に可愛がり参勤交代の時にも連れて曳きまわしたところ道中一つも事故が起こらなかったことからその犬の子孫代々大切にしてお大名行列に加えるとそれが評判を呼びました。安産の代表と言える犬と有馬家の水天宮が結び付き水天宮が安産の守り神として賑わうようになったようです、芝から人形町に有馬屋敷が移ってから毎月1日、5日、15日の門戸開放日には大変の人出だったとのこと。以後人形町は水天宮の門前町として栄て行きました。

## 6) 伝統の鶏料理「玉ひで」



玉ひでは江戸の郷土料理として知られています。宝暦10年(1760)に將軍家の御鷹匠だった山田鐵右衛門によって創業されました、鐵右衛門は鷹が捕らえた鶴を將軍家の前でさばく「御鷹匠仕事」(血を出さず肉にも手を触れずに切り分ける包丁作法)を家業にしていました。店はまたたくあいだに評判になりましたが明治になって5代目の妻が考案した「親子丼」が有名になり全国に知れ渡るようになりました。お昼の元祖親子丼は現在でも根強い人気で1～2時間程の行列ができています、本日は私も1時

間待つようやく親子丼にありつけました。待った甲斐もあって確かに一味違う美味しさでした、夜はコース料理の軍鶏鍋になっています。ところで玉ひでの隣には文豪谷崎潤一郎の家があってよく玉ひでから出前を取っていたようです、また私の好きな作家池波正太郎の鬼平犯科帳にしばしば出てくる軍鶏鍋の店は玉ひでがモデルになっていると言われています。TVの中村吉右衛門ふんする鬼平がいかにも美味しそうに軍鶏鍋を楽しんでいる顔が目につきます。今度は夜の軍鶏鍋のコースを味わってみたいと思います。

7) 甘酒横丁



いかにも親しみを感じる名前ですね、江戸時代は武家地でしたが明治時代の初めに人形町通りから入る横町の入口に尾張屋という甘酒屋ができて人気になり人を集めたため「甘酒横丁」と呼ばれるようになったと言われています。



甘酒横丁にはいかにも江戸時代を彷彿させる老舗・岩井つづら屋があります。

歴史は古く江戸末期に創業しています。つづらは江戸時代から着物などの収納箱として使われ嫁入り道具として一家に一個はあったようです。

。現在つづら店は都内に2軒だけになってしまいました、江戸の伝統工

芸品としてこれからも伝統を守ってほしいものです。最近ではインテリアや海外の土産としても人気が高くなっているようです。甘酒横丁にはそのほか明治から大正にかけて創業された老舗がいくつかあります。

。ご存知すきやきの今半、三味線のばち英、豆腐の双葉、鯛焼の柳屋、ほうじ茶の森乃園等軒を連ね私たちを楽しませてくれます。そのほか人形町・明治座・水天宮周辺にも名だたる店がたくさんありますのでのんびり歩いて楽しめる街です。

ばち英



双葉



柳屋



森乃園



## 参考図書

---

参考にさせていただいた図書

小説太田道灌（著者：大栗丹後）

北条条早雲（著者：中村晃）PHP文庫

江戸東京物語（新潮社編）

日本の歴史名場面100（著者：童門冬二）

江戸東京文庫(篇著作者 高瀬 恭章)

江戸・東京散歩35選(篇著 雲村俊髓)

江戸・東京歴史物語（著者 長谷章久）

奥の細道ノート(著者 荻原井泉水)

徳川吉宗・男の一生(著者：泉 秀樹)

伊能忠敬（著者：童門冬二）

板橋観光センター資料

江戸四宿を歩く 江戸東京文庫7 街と暮らし社編

豊島区史跡散歩(学生社) 著者 伊藤栄洪 堀切康司

鬼平犯科帳を歩く(旬報社) 著者 西尾忠久

鬼平犯科帳7(文春文庫) 著者 池波正太郎

東京・江戸地名の由来を歩く(ベスト書房：著者谷川彰英)

江戸東京歴史の散歩道(街と暮らし社)

東京路上細見2 著者 林順信

江戸の醍醐味 著者 荒俣宏

東京下町老舗と名所 婦人画報社

近江商人魂 著者童門冬二 人物文庫

名僧列伝 著者紀野一義 講談社学術文庫

保科正之 著者三戸岡道夫 PHP文庫

江戸東京歴史人物散歩 著者雲村俊髓 PHP文庫

名家老列伝 著者童門冬二 PHP文庫